

24/2/16 名古屋市議会総務環境委員会（後半）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

委員長 服部しんのすけ(自民・熱田区)：ただいまより総務環境委員会を再開いたします。この場合ご報告申し上げます。

先ほど藤田委員より、市長に対する出席の要求があり、その取り扱いについて正副委員長にご一任いただいたところでありますが、正副委員長にて協議いたしました結果、市長に出席を求めることといたしました。それでは、市長に対する質疑等があればお許しいたします。

くずや利枝(自民・名東区)：市長お忙しいところありがとうございます。

今回のこの報告書の中でですね差別発言に対する市長のコメントについての主な問題点と評価ということで取りまとめてありますのでその点について見解を伺いたいと思います。この問題点として市長が熱いトークがあって良かったと発言したことこれは差別発言であり人権侵害であったという評価が、検証委員会によりなされておりますけれども、これを受けて市長の見解として、人権侵害があったというふうに受け止めていらっしゃいますでしょうか。お考えをお聞かせください。

河村たかし名古屋市長：この点につきましては、6月22日か23日、共産党の田口さんの質問に答えておりましたですね、会議で議事録がありますので、全く同じですのでもなしても喋れんことはないですけど違いますと、やっぱりまずいと思いますのでこれを読ませてもらっていていいですか、ちょっと長いんですけど。

2つありまして、初めのところはいわゆる我慢しろという話ですから、2番目はいわゆる差別発言に及ぶ言葉ということでございまして、2つに対して田口さんから質問伺っております。

まず僕は、まず当日参加されるおられた一部の市民から他の参加者に対して差別発言があった際、差別発言をした1人目の方には職員が駆けつけまして、駆けつけましたが2人目の方も含め、発言の静止や注意喚起といった対応ができず、発言を受けた方は大変心を痛められると思います。

また他の参加者の方や動画配信をご覧になった方多くの方にも不快な思いを抱かせることになり改めてお詫びを申し上げます。市側の対応についてしっかりと検証を行い、再発防止に向けて全力で取り組んでまいります。

発言者が立て続けにお話される中で聞こえた部分と聞こえなかった部分もあるけど、身体的ハンディキャップへの差別表現については突然出た言葉であり、何を言われたのかを聞き取れなかったということから、聞こえなかったと申し上げたということでございます。

今回の発言は差別かどうか市長の認識ですけど討論会において発言された、そちらの車椅子の方という障害のある方と何かと分け隔てその上で、障害者がエレベーターの設置を求める意見を述べたことに対するわがまま図々しい我慢せよと、また身体的ハンディキャップの差

別表現を用い、生まれながらにして不平等があって平等と、そんなお金もつたいないと思うけどねといった一連の発言は障害者基本法および障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の理念に反するものでありまして、障害者差別でございます。

それからなかなか良かったという発言は差別発言以外の参加者からの意見に対しまして8名意見を言っておられます2人、そのうち2人が差別発言があったということですが、それは建設的な意見もございまして、わざわざの場に出てきていただいたということですね。無作為抽出の方ばかりですから、そういう表現を用いた閉会にあたってということでございます。わざわざが出てきていただいたということで感謝の意を話したことでありまして、差別発言を容認するものでは全くありません。このように答えておりますが、こういう認識です。

くずや利枝(自民・名東区)：ありがとうございます。

今のご答弁の中で障害者差別があったそして再発防止に向けて全力で取り組んでいく必要があるという認識を持っていらっしゃるという中で、人権という観点でまた別の事案についてお尋ねをさせていただきますけれども、この発言が6月にあった後ですね、昨年10月コンビニ交付に対して、名古屋市が対応できていないということに対して、市長が定例会見で「奥さんが区役所に取りに行けばええ」といった発言をされました。このコメントに対して私は男女差別だという受け止めをしましたけれども、この発言に対して発言は男女差別に値するかどうか市長の見解をお尋ねいたします。

(それ答えんといかんですかこれ。)(指名してから答えてください。)

河村市長：まずこれ答える義務ありますか、これ。

何の質疑通告もなしにですね、全く違う委員会です、こんなこと人権侵害じゃないですか。

委員長 服部しんのすけ(自民・熱田区)：委員の方からあの反問権は認められておりませんので、お答えください(そんなこういうこと自体がおかしいぜ本当は。市のルールだってめちゃくちゃじゃないですかそんなこと。)

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：また同じに入って行って、また分けわからなく、例えば答えなきゃいかんかどうかということを精査するんだったら、市長暫時休憩しますよ。(いいですよ、やってください)それか、もう答えられんなら答えたくありませんっていうおっしゃられたらどうですか。

答える必要ありませんとか、(そのときは答えとる)(市長、発言は)だからちょっと何かのまだ私が喋ってますね、委員長ね。

場外に話を持っていってしまうと、論点がずれてしまうので市長さんが求めるなら暫時休憩していただくかい。また続かんで、そんなことをずっと繰り返すことになるけど進めてください、どうぞ委員長。

委員長 服部しんのすけ(自民・熱田区)：市長、反問権は認められてませんので質問に対しての答えをお願いいたします。

河村市長：確かいっぺん会見のときだったかどうかですけどね。マイナンバーカードことについては、それは謝っておると思います。謝っとるけど、僕の場合は奥さんがというふうに言いましたけど、他の人が行ってきて、そういう仕組みを作った方が今度みたいだね。マイナンバーカードなしでもできるように総務省が大転換しましたけど、そちらの方が遥かに人権侵害だとそういうことをやらせる方が、そういう意味で話ししたということで、確かそういうふうにもう既に答えてますよこれ。何編も何編も呼び出してですね、突然質疑通告なしでの行為そりゃね、ちょっとそういうルールかどうか知りませんけどいかんのじゃないのそれ。本当に答えてますよ。

くずや利枝(自民・名東区)：質問の範疇を超えるというお話ありましたけれども人権にフォーカスを当てているという中でこの人権が包括する範囲というものは障害者以外にも性別。外国籍い部差別ですとか、いろいろ包括されておりましたかつこの中間報告の中でも触れられておりますけれども、今後最終報告に当たっては、人権包括に関する条例制定の必要性についても検討していく必要があるということで触れられておりますので、障害者以外の人権に対しても範囲内であると私は考えております。

6月に差別発言があって再発防止に向けては人権の観点で全力で取り組んでいかなければならないという市長のご発言があったにもかかわらず、同じ人権の範囲でですね、障害者ではなく女性に対する差別とも受け取られる発言が10月にあったということ例はですね、本当に人権意識、人権感覚を育成していくというのは本当に難しいことだろうなと私自身思っております。

もう一個人、市長75歳と伺っておりますけれども75歳の男性がこういった発言をされるという発言に対する自由はあると思っておりますけれども、公職者として名古屋市長の立場として定例記者会見の中で発言するというところに問題があるということをおもっております。

この検証報告か中間報告の中でも言及がありますけれども、市長の立場として市民の自由な発言を尊重することそのものは理解できるが、公職者として差別にはより厳しい姿勢で対応に取り組んでいただきたいと言及がありますけれども、公職者の立場として差別発言に対する意識というものは市長ご自身として今後改善していくものがあるかどうか。

この中間報告の内容も受けてどのようにお考えされているのか、お聞かせいただければと思います。

河村市長：私からそりゃあ、マイナンバーとかマイナンバーカードを推進しとるような人がよう人権だって言いますね本当に。これほど最大の人権侵害であってそれこそとんでもない、私はそういうものはありません。根本のところが違うじゃないですか。

そうでしょう、（問題のマイナンバーの件の）言い出したから言ってんですよ、（議論は違います、この委員会委員会での内容でのご答弁をお願いします）ほんだで市長として人権を守る、例えば減税日本たくさんの女性の議員も多いじゃないですか、なるべく頑張っ出てもらおうというふうに頑張っとるわけですよ。

そこは確かに家庭ですと取りに行ったらどうだという、その言葉が女性ということになったわけでそれは申し訳なかったって、確かあん時には謝って私、それを何遍も何遍を持ち出して、マイナンバーカード推進しとる側、よい言うてるあんた本当にとんでもないですよ、

くずや利枝(自民・名東区)：このマイナンバーカードの推進が人権侵害に当たるかどうかという点については、市長が総務省に先般直接制度のことも含めてお尋ねなさっていますけれども、マイナンバーカードの推進が人権侵害に当たるかどうかということも再度確認をいただいたら良いのかなと思いますが、今回はコンビニ交付は所管外ですのでちょっとこれ以上の言及はやめておきます。

それはもう私が懸念しておりますのは、この中間報告で再発防止策が挙げられておりますけれども職員に対して再発防止策、この職員の中に市長も当然含まれているというふうに受け止めておりますども、市長の現在のご答弁の内容を聞いていると本当にこの再発防止策というのが十分に足りうるのかというところを懸念しておりますが、この中間報告で挙げられた再発防止策に対して市長としての受け止めはどうお考えでしょうか。

河村市長：7項目でしたかね、挙げておられまして丁寧にご提言をいただいたというふうに思っておりますんで、一つ一つ丁寧に趣旨に沿うようになってきますということ、プラスこれはヒアリングのときに言ったんですけど、僕は障害の名前がその言葉自体が差別発言だと思っておりますので、それを換えようとしてますんで、不自由な方となるべく言うようにしてますけどね、その始めのときに、何を言っただ、そちらの方が失礼だ。（不規則発言やめてください）不規則発言そっちが言いかけたじゃないですか。順序ははっきりしていつてもらいたいです。

そう思う議論はあるけども、障害という言葉自体が差別用語じゃないかというのは長年ずっと議論的なんだからこれ、それをいかんということ自体おかしいですよ本当に。まあええわ、そういうこと。

それから7項目についてありますけど、何が言いたいかいうとやっぱりいろんな街づくりやいろんなところで、いろんな提言を聞くことになってますけど、一番最後の辺でどうしても出てきちゃうとどうですかと、例えば車椅子の方にね、どうですかと言うんだけどもっと早い時点で、計画を作るところからこれをやってくようにしようと、これ予算事項になり

ますよね、やめときますけどそういう制度を作っていくと、名古屋ですね。だから上場会社でも作ってくださいよ。精神の方はありますよね。

●という会社がありまして、あれは名古屋大学出身の方が上場会社まで作ってますだから、今度はその精神に限らずやっぱりいろんな考え方、名古屋城はそんなの一つかも知れんけども、あとはどれか民間のうちでも、一般的な公共建築物でも、歩道でも車道でもそういうとこをどうやって作っていかうかということに初めから参加していただくと、意見を聞くだけじゃなくて、そういうことを考えております。

これ予算事項になりますからここで止めておきます。

くずや利枝(自民・名東区)：大変この障害に対する見解について不安を覚える発言があったんですけども、この障害者差別解消の推進に関する法律の名称が、障害者差別解消推進条例でございまして、名古屋市でも定められている今の市長の発言を踏まえましてこの条例の名前自体にも差別発言が含まれているということで、条例の名称の改正も検討した方がいいということまで、市長はお考えになるのでしょうか。

河村市長：それは悪いけどね委員、これあの厚労省の会議録を見ていただきますと、もう何十年も前ですよ。やっぱり障害に触るということですから障害というやっぱこれはまずいんじゃないかということで、相当議論されております。

だけど今のところはそんなことよりどちらでもいいというようなことになって、それぞれいろんな福祉政策を充実させようというふうになんてなってます。名古屋でも私聞いてますこれから今のアジア大会、アジアパラここでも、この機会にやっぱり改めようじゃないかと言いましたらこの間、会長さんが横に座って、そんなことより福祉をとにかく寄附を充実させることになっちゃうので、それはもう河村くんが言い続けるよりしょうがないと裏取っていただいてもいいです、というふうに横で言っておられました、その方会長は。だからあなた勉強してからやってくださいよ、そんなこと突然いうだったら、厚労省の審議会の議事録読んだの。

くずや利枝(自民・名東区)：数十年も前の発言録は読んでいないという形ですけども、今回この報告書の中でそもそもこの討論会で差別用語が出たその差別用語をそもそも知らない職員が少なからずいることがわかったという内容があります。特に若い世代の方は差別用語そもそも知らなかったというような部分を示しているのかなと思いますけれども、だんだん今おっしゃっていたように、30年前と今と、また30年後を考えたときに人権が示す範囲ですとかこの差別、それに伴って差別用語というのも徐々に時流に沿って変わってきている。

そして今後も変わっていく可能性があるという中で今回ですね職員に対する市長も含めてですけども改めて今の答弁の流れも聞いておりました差別用語に対する職員間での周知

というのも必要なのかなと思ったところです。私からは、その点を意見として申し上げておきます。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：市長さんお忙しい中ありがとうございます。

まずちょっと端的に一点お尋ねします、市長今のこの検証委員会の中間報告書の中では、エレベーターの事前にアンケートでよかったなアンケートを取る中で、市長市長へのレクによって、設置しないという項目が加えられたい、やのことが報告があるんですけども、これはいつ、どういう場面でこの項目が加えられたんですか。

河村市長：それは本当にあんまりよく覚えとらんですね。本当にそうなのかどうなのか。ただ一番上までエレベーターの図面を漫画で描いたのが出てきましたんで、これはいくらでもいかんよとまだその技術があるかないかもわかってなかったんですよ。

私内部の話も聞いてますけど、これはいかなだろうといくら何でも、やっぱりそういうふうに新聞出ちゃうと誤解するんだよねみんなということあったこと。

それから今の話のエレベーターない、昇降機なしというのがちょっとわかりませんが、私は実はその時に望んでおったのは、リニアで上がっていく技術も開発されとったわけです。

リニア技術、ちょっとわからんかわからんけど、横とか下から磁力で上がっていくと。

今度大阪万博で出すと言ってましたけどねこれが。それとか、もう一つどういうんですかギクシャクとやりながら車いす自体で上がってくる技術も。それ期待しとった交渉もしてましたずっと。だからそっから出してくれるもんだとは思ってましたけど、本当エレベーター昇降機いらないその場合は違うんですね。

車いす自体の技術革新でやれるようになるということそれは本当にやっていますよ、裏取ってもらってもいいです、そういう考えがいろいろあったんです。だからあそこに模型まで作ったんですよ。

1億近い金使ってますですけどあれ。そういうところで実験をいろいろしててくださいと、リニアにしろ尺取虫みたいな車いす自体が上がっていくとか、そういう期待が僕にはあったとそういうことです。言ったかどうかちょっと繰り返しますが、それちょっと本当記憶は確かじゃない

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：となり当局の客観的なファクトでいいので、ここのちょっと検証報告書のところの設置をしないというところのやり取りのその事実確認の部分でちょっと説明してください。覚えがないとおっしゃるので、いつ、どういう場面で、要するにそのやり取りまで含めてね。

伊藤主幹：中間報告書の方にございますけれども、失礼しました。

令和5年3月30に市長レクという場で資料が提出されておりました、その際に市長レクの出た資料では設置に賛成、設置に反対どちらでもないという3択がありまして、さ

らにそれとは別の選択肢が用意されておりまして、1階まで2階まで3階まで4階まで5階までわからないその他というふうな選択肢になっておりました。

それが令和5年3月30日の市長レクを踏まえて、その両説明が統合した果、設置しない1階まで最上階までわからないという形に変更されておりました。検証の中では、この経緯について確認するべく観光文化交流局等に確認をしたんですけれども、そこのレク更したということの回答がございましたが、こういった経緯かというのは記録等がなくわからないということが回答がございました。

以上が事実部分でございます。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：ちょっと市長さんしばらくのご発言、質疑をちょっとしませんので、ちょっと当局に今のところをお尋ねをもう1回する改めてするけど、記録がないとされていながら、検証委員会では、この設置をしないということが非常に問題があるという指摘をまず受けているという事実。かつ今市長はよく覚えがないけれどと言いながら、新しいリニアがとか何か磁力がとかおっしゃってます。そんな技術の話はどっちでもいいんですがその技術があるからね、あるからだから設置しないという基準は、項目設置しない基準の項目がないのおかしいのかどういう言い方をしたかわからんけど説明をされてるのに、観光文化交流局側ヒアリングではその事実がわからないところが検証委員会ではこの要するに設置しないという選択肢を置くべきではなかったこの結論が出るっていうところが、まったく信用しないけれどどうしてこういうことになるんですか。

わかりますか言ってるように、観文は知らないという。

市長だけ30日のレクを通じて、設置しないという項目ができたが、その詳細にわたっては観文に観文が記録を持っていないという。

ところが市長は、そういう新技術が何とかどうでもいいというどっちでもいいと言ったのはその技術の新技術のね中身についてはこの際今はどっちでもいいけれどという意味なんだけれどね、何か人の言葉の言葉でばかり捉えてはワーツと言ってくるんだけど、そんな別に何か悪意なことは言っていないわけだね、いいですそれはねそれはいいとして、信用しない。

だけど、検証委員会では設置しないという選択肢を置くべきではなかった、こういう結論が出てるんですよ。これをどう説明するのって、聞いているのね。

伊藤主幹：今回の討論会で設置について、どこまで設置するのかというところでもございましたので、委員の方で元々です想定しておりましたのが、どの階までということですので、1階まで2階まで3階までとそういうものが設置されているというふうな当初認識でございましたのが、今回最終的に出たものが設置しないというものが含まれていたの確認をしたところ、先ほどの回答で、ただその中で、副市長のレクまでは、そういった1階2階3階という各階、どこまでかという選択肢が変わったと事実関係はわからないけれども、その

市長レクの中で変更があったということは、市長の何らかの関係があるのではないかというふうには、推認を委員がされたということです、

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：すなわち市長が指摘をしたときには、もう既に設置をするという結論はあってということ。

30日のその市長の発言があってから設置をするという選択肢が加わった。どっちですか。

伊藤主幹：30日の後の資料から、設置しないというような選択肢が含まれるような形に変更がされたという

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：さっきの副市長のレクというのは何の話。

それはいつの副市長レクの話。

伊藤主幹：3月29日に同じような資料で副市長レクがやっております、3月29日の副市長レクと3月30日の市長レクで同じような選択肢の内容でありましたが、その市長レクを得た後に、選択肢の内容が変わったということで、委員の指摘としてはこの31日の市長レクなんではないかということでございます。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：これは他局の話だから、先ほど委員長からも注意があったので、中間報告書にまとまっている事実だけでお話をいただければいいです、担当が違うからね、いただければいいけど、私のこの中間報告書を読んだ限りの解釈は既に討論会をやるのがやるまいが、可能な限り5階層まで可能な限りエレベーターをつけるという結論は決まっていた。それが1階であるか2階であるか3階であるかということはあるにせよ、それは決まっていた。

いや今から聞くんですからしご心配なく、ちょっと発言を止めてください。

委員長 服部しんのすけ(自民・熱田区)：市長、不規則発言はおやめください。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：今からその事実を聞くんですけど、静かにしてくださいあなたに市長あなたに質問してるわけじゃありません。

あなたに質問するためには事実関係をきちんと確認してからでないといけないからやるんです。今言ったちょっと話が途中でわからなくなるから妨害になるからやめてくださいね、今言ったわかりますね。

だから、つけるということは一定決まっていた。

だからそれに基づいて討論会のアンケートを作成をしていた当局は、ところが、3月の30日に設置しないという選択肢がどうもプロセスはどなたもわからないので、記録もない覚えもないと言われてしまうとね。

だけど、3月の30日には設置するということが突如として出てきた。

だけど、経過はわからないけど、検証委員会は設置するという選択肢を置くべきでなかったと言い切ってるということは先ほど私の推測で言うと、もう、エレベーターをつけることは決まっていたんだということが事実として、調査ができていないか否かだけ教えてください。市長が、我々が言ったことにすればわかって言われるのも受け入れがたいけど、それは政治家同士だからいいとして、当局が答えようとしている途中に、市長がああだこうだっていうのはまたここで忖度が生まれてしまう可能性もあるのでそのときは、市長注意してください。（市長職員の発言に、圧力をかける可能性がありますので、やめてくださいとのこと。）

あの、今のことでまたおかしくなるから主幹さん、どなたがお答えになるかわからんが、あなた方は検証委員会で検証された事実だけを答弁すればいいので、市長がどう言おうとうん、それは公務員のあなた方の責務であると思うので、事実だけお話しただければ結構です。

伊藤主幹：中間報告のですね冊子の方に参考資料として載ってございますが、当初の方のあの市民向けのですね、あのアンケートの協力をお願いというところで、意見聴取、討論会の目的のところでは復元する木造天守に最優秀者の昇降技術をどこまで設置するのか、また名古屋城全体のバリアフリーに関して市民の皆様のご意見を頂戴し、その結果を踏まえて名古屋市の方針を決めていきたいと考えておりますというふうな記述がございましてどこまで設置するのかということをおまかせに委員の方が検証進めていったということでございます。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：だから、あの設置しないという選択肢を置くべきではなかったという結論になると、おそらくその間のヒアリングでは、今のでよく明らかになりましたが、観光文化交流局には記録がない。だから行政側のメモから事実関係を確認することができない。

ただ市長さんが今どうしてですかと聞いたら今おっしゃったようなことを多分検証委員会でもお答えになられているんであろうから、先ほど私が言ったような結論で、30日まではエレベーターをつけるということが一定の方向として決まっていたものも、設置がないというのはおかしいみたいな話になって、突如として市長の意向により、この30日に設置するという項目ができた。

かつ、この話はこれで終わりますが、討論会にいたっては設置しないというアンケートに基づいた討論が行われたのであの差別発言に繋がるような、先ほど対立という言葉も他の委員から出ていましたが、対立を煽るような、あの討論会になってしまった。

これはおそらく検証委員会の私の言葉に直してますが、中間での一つの総論が生じた結論だからそこにまず大きな問題差別発言を発生してしまった大きな問題は、この回の討論会のいわゆる進め方も含めて、その設定しないという項目、優先エレベーターはないということの選択肢があるというふうに参加者が誤解をしてしまう。誤解をしてしまうそういう状況の中で対立構図が生まれる討論会が開かれた、こういう事実になったということだと思います。そこはもうこれで確認ができましたから結構です。

何かを何か言いたいことあるならおっしゃってください。おっしゃってください、言いたくない、私はここは当局とのやり取り。市長が言いたいことがあるならどうぞ。はいどうぞどうぞ。

喋らしてあげる（ああいう言い方変えさせろ委員長、）私は尋ねていないけど喋らせろって最初に言ったのは市長あなたが言ったんだ。なんでも、もうこういうやり方やめよ。喋らしてちょっと、あなたが言ったんだ。だから喋って喋らせてあげてと言って、何が何が失礼なのかよくわかりません、言われた言葉をそのまま返しただけですから私が言いたいことは以上ですどうぞ。

河村市長：繰り返しますが、エレベーターが昇降機かってことありますけど、要するに本当に一番やりたかったのは今のね、どうでもいいようなこと言ったけど冗談じゃないですよ、それできたら車椅子でもそのまま上がってくるようになるわけです。これは不可能じゃないですよってあるんですよ。次そういうよく似たのは、リニアのやり方と一つ小型のリニアモーターですわずっと上がっていく。他もう一つはこういう尺取虫、ここは出す言っていましたよ。コンペにここは。名前いっていけないことになるとるで言いませんけど、だからそちらの方で昇降機なしでもやれる可能性というのが、実は僕が一番いいなと思ったんですこれは。変な構造の改編を伴わないから。だけどそれは完全に構造の改編に伴わないかどうかはわかりません。

これはやっぱりリニアの板を置くのをどうやるかとかあるんでね。

そういう意味で、その選択肢はずっとあったんですこれ。だけど結局出さなかったこれはコンペに、そういうことであるんであって初めからエレベーターなしでということは、僕はそんなことは言っとらんと思いますよ、そういう意味でエレベーターじゃなくて上がっていくとは何とかやるようにしよう。

ちょっと時間かかるかわからんけど、本当一番喜んでもらえるじゃないですか車椅子の人に。そういう話なんであって、根本的に違うで、ええ加減なことを言うのやめちゃうよ本当に。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：市長が最終的に設置しないというアンケートで聞くということ、を最後どっかで決めると思うんだけど、決めると思うんだけど、それを原案で見せるなり何なりをした。

それはいつですか。失礼しました。あの当局に聞いてます。

伊藤主幹：検証委員会の中で確認できておりますのは、レクという形でですね構えられて提出いただいた資料ということになりますと、4月6日の市長レクのところが最終のアンケートを検討するレクということでございます。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：今この事実でわかったことを言うと、市長はいろいろそういう思いがあって、俺はそういう意味で言ったんだというご説明はいただいたので、そういう思

いがあったという（市長あてておりません）ややこしくなるから言ったかどうかというのは私の発言なのでそういう思いを伺ったということにしとしましょう。

ただ、それを30日の時点はそういう話。だけど4月の6日には少なくともそのアンケートの現物が出てこれで最終確認いきますということには新たに設置しないという項目が加わっていたというのが事実であろうというふうに思いますから、それはその確認ができればそれで結構です。

先ほど市長が喋らせたというとまた怒るからどういう表現がいいのかわからんが、ご自身の思いを言いたいというので、今お話になられて話を聞いていて、私が思うのは、そういう技術があるからだから設置しないという項目がふさわしいかどうかは置いて、そういう思いであったという話だったんだけど。

だったんだけど、討論会のときにね、出た話は、そんな新技術があるからそれを待ってればいいじゃないかとか、新技術があるんだったらそれに期待して設置しないという方法もあるでしょうという討論が行われてそれが闊達に行われていたそういう発言もあったかもしれないけど、闊達にそれが主軸で行われていたということであれば、今市長さんがおっしゃられるようなそういう議論だったんだなと思うんだけど、検証委員会から指摘をされて、まして私も動画も見てますんでね、結局。設置をしないということに選択をした市民から出た言葉はわがまま。図々しい。我慢せいで、差別用語になりますから使えませんが、生まれながらにして差別用語という残念ながらそれが討論会の結末なんですね。ここが問題なんですよ。

市長がほらこういう技術があるでね私がどっちでもいいと言ったことに憤慨されたのそれはまた今度何かの機会あればゆっくりその新技術の話を伺いますが、そこじゃないんだ。この討論会は、

あくまでも障害者に対して、エレベーターをつけるなんていう設置しないという項目に答えられてる方だと思うんですね。その方たちは、障害者に対しての方に対して、車椅子の利用の方に対してわがまま、図々しい、我慢せいってということなんですよ。生まれながらにして不平等。差別用語という言葉で討論会が行われてきたということが事実なんですよ。あなたの思いはわかったけど、だけどそういうことになってないんだ。この討論会は、ここなんですよ重要なのは、これはよーくご理解をいただきたいと思うんです。

どうですか、市長。

河村市長：田口議員のあれで答えてますけど、それは残念なことですね。そういう言葉が出てきたというね、残念なことだけど新技術があるからいうてか、現実に抽象的ではありますけど、ああいう名古屋城の階段を上がってくようなふうに工夫できるかということについてはやっぱり相当の工夫が要るわけですこれ。

だからまだありませんよ、あるからということができる可能性が十分あると。

今言った尺取虫みたいに上がった方法についてはやりますから、ぐらいの出しますとコンペぐらいの話はあって、本人に聞いてよかったら話します。一応黙ってくれて言っていましたから、そういう状況であったということですよ。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：今私一つねそれはこれ今聞くつもりはなかった。売り言葉に買い言葉になってしまうんだけど、そういう市長の思いをわかったが、だったらこの討論会何も6月に急いでやらずに、その尺取虫が出てきたときに、改めてその提案を含めて討論会をやればよかったじゃないですか。

なんでそれ6月にやったんですか、質問です。なぜこれ6月の予定。

河村市長：私これ自分とすると、市民の意見を聞いてこうやってやるというのはね、市民の意見をいろんなところで聞いて風なことものすごいやってきましたから、今まで、本当すごい数ですよこれ。

だから、そのことは反対はしませんけど、今回ああいう格好でやるというのは、私全然その指示もしておりませんし本当に、指示も出してないですよ。指示を受けた人いないと思いますよ。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：結論としては、市長は知らなかった知らないという言葉とか6月でも、最初は8月にやる予定だったのが7月か7月にやる予定だったのを6月に前倒してまでやったということも指摘を受けてるんだけど、市長自体はこのタイミングでやる必要はないというか。

別にやらなくてもいいと思ってたのかな。その市民の意見を聞くという機会は、ウェルカムだということはわかったけど、だけどその尺取虫。ごめんね俺も知識に乏しいから尺取虫で我慢してね、尺取虫がプランが出てきますって断言されるんだからそれが出てから討論会で良かったんじゃないですか、後付けっていうか、振り返ればそういうことなんじゃないですか。

こんなわざわざ6月にやる必要なかったってことじゃないです。

河村市長：私があんときを振り返ると、何か議会で市民の意見を聞いたらどうだということのを言われとるのでやりますという話があったと思います。そうかねそういう話ですわ。

なんで無作為抽出になったとか、討論会になったの言葉の話も見てましたけどやってましたけど。それも私、認識ないですね。あんまり討論会にするないですよ。でやってた何か無作為抽出っていう言葉が出てきて僕が言ったかどっちからでてきたかももしれませんが、どうせやるなら無作為抽出っていうのは非常にいいんじゃないかと。

フラットそれって僕、答えてますけどフラットに、本当にどうしても、あんまりいいことじゃないけど、ある程度決まった人が出てきますんでね、ものすごい会をやってますんで。

それであろうと。それは相当こだわって、無作為抽出はいいよとといったことは

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：おっしゃる通りなんですね。それも聞こうと思ったんだ聞くんもりなかったけど言った覚えがないって話になっちゃったんで、討論会っていうのも承知してないみたいな話になっちゃったから、だけど無作為抽出でっていうのは市長が言ったから、討論会ということになったっていうふう書いてあるんだね。

そこの市長の思いを汲んだから討論会になったっていうことが検証委員会で事実認定されてるわけですよ。

ちょっとこれは私の表現なんでお気に召さなければさっきみたいに向け当局に聞きますが、間違いのないところ多分ここはいいと思います。そこに無作為抽出にこだわるがあまりにというところで、検証委員会も討論会は不適切というか、不適切という言葉でよかったかどうかという言葉があったとか、討論会をする必要はなかったんじゃないかみたいなことになったというのが結論なんですね。

まさに市長がだったら最初から討論会 6月にやらなきゃよかったんだわ。

私の結論からすると、今のこのやり取りでそれがよくわかりました。

市長別に急がせたわけじゃないと。市長が急がせたわけじゃないと。

(議会で、) だけど議会の答弁に対して議会の質問に対して、市民意見、ところがねこのときもね市民の意見を聞くとは答えたのかな答弁は、討論会とは確か言ってなかったのではないかなと。

いいですよそれは議会に聞かれたでやったんだというなら、市長さんがそうおっしゃるらそこはそれで結構です。その討論会の性質の整理をしたかったんで、どうもちょっと私聞いてんってうんって思うような話があるけど、それは横井先生にお任せして、僕も聞くとおっしゃってみえたから、それは横井さんの方にお渡して、私は自分のすべきことしますが、討論会の性質はよくわかりました。先ほど葛谷委員が聞いた話にこの資料でいうと 25 ページ市長さんのコメント例のやつ。

熱いトークもあってよかった。市長はこの言葉については、先ほど他の発言者への謝意だと。感謝の気持ちを述べた言葉で、その様子に不快な思いをさせたというね、いうことは申し訳ない申し訳ないとはおっしゃってないけど、それを認めになった上で、全部聞き取れなかったのということも言われた上で発言者への謝意ということで、このトークを使ったというそれは田口さんの質問に答えたと。

私も知ってますはそう答えたことはね。

私率直にせず市長聞きますよ。これ、訂正されたらどうですか。

熱いトークもあってよかったというのは不適切であったと。もう今の段階で、訂正されたら、もう検証委員会として結論出てるんだからこれ、不適切だったということが市長の発言は、だからこの際、ここが一番重要なんです私が一番聞きたかったと訂正されたらどうですか。

所

河村市長：こうやってね、ポンポンポンンここで言いますけどね。やっぱり確かにあのときにあれですよ、僕2人ぐらいだと思いますけど、女性の方が、発言されて、本当に今までは関心がなかったけど、内容を聞いて本当にわかりました。ええと言ってくれた時そういうことでね、今後のことはいかんけども、簡単に訂正しろとかいろんなところで言われるけど、そう簡単なもんでないよ私からすればそれは、実際そういうご発言もありましたから。やっぱ無作為抽出ですから今まで一遍も言ったことは聞いたことね発言が出てきましたから。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：それはおそらく、田口さんが本会議で質問されたときの思いだと思うのね。

市長のそれも、私は100歩譲ってですが理解をしましょう、理解に努めます私がね。

市長の今の思いは、だから先ほどの話で他の人でもええこと言ってくれた人がおっただね、そういう人たちに向けて熱いトークもあってよかったですね。ただ、残念なことに聞き取れなかったらしいので、ね、そういう不快な思いをされたような発言があったことは聞き取れなかったらしいから、そのことに対してはこの段階で言及されていなかったということ、田口さんの質問でおそらくお答えになったその当時は、だから葛谷さんが聞いたときにあのときに答えてますがねっていう話になったのだと思う。

私が今言ってもそうじゃない。

検証委員会がこうして一定の中間報告を出してきた中で、先ほど断定してるのか推測なのかという議論をやりましたが、この部分については先ほども私もこの検証委員会の報告を評価をしたんだけど、はっきりと断定してるんですよここは。

市長の発言については読みましょうか。過激で口強い口調だと差別を含んだ発言を評価したとさえ捉えられかねないため、後日であっても差別発言に対する積極的な問題提起をするべきであった市長の立場として、市民の自由な発言を尊重することそのものは理解をするが、公職者として差別にはより厳しい態度で姿勢で対応に取り組んでいただきたいと断言してるんですここは。その後何を言ってるかという、この結論が出た以上は、やはり熱いトークだったっていうのは、私は訂正されるべきだと思います。

今先ほど市長は予算項目に触れるからということをおっしゃったが、いろいろね障害者だとかバリアフリーに対する令和6年度予算でいろんなことを考えとると、いろいろなご持論もあろうが、障害ということもね。表現を変えたらどうだということを俺は思っるとね、そこまでの思いがあるならずっと市長、この発言にとらわれてっちゃうんですよ。

あなたがこれを訂正されて人権とか障害者に対して私は理解があるんだということを主張された方がいいんじゃないのかな。だからここで言うついたことが、熱いトークがもうあって良かったですねっていう、この発言はやはり不適切だったと。だってさっきの話じゃないけど、市長は聞こえなかったかもしれないけど、市長の思いはあるかもしれませんよ。そういう新技術があるから。

だけど実際の討論会はね、図々しいだとか、我慢せいだとか、わがままだとか、あと一番今問題になってるような発言まで飛び出してるわけです。それは設置しないという項目を加えたことによってね市民が誤解をしたのか、それで要するになんてエモーションに火がついたのか、それはその人じゃないとわからんけど、そんな市長が期待してるような討論にはなっていないわけですよ最終的に、結末として。だけど、その障害者に対してのお詫びなのかなそういう言葉すらなく、全部を包括したのが熱いトークもあってよかったですねって終わってしまっていたという事実ですね。

先ほどまでの市長のご発言わかりました。それは田口さんが質問した時点の話、いろんな事実がわかってきて中間報告でここまで取りまとめができて、もう1回言いますよ。

市長も障害者に対してのその前向きな姿勢の予算を組んどるといふふうにおっしゃられるんなら、私はこれ訂正するべきだと思うけどな。撤回するなり、どうですか。

河村市長：そう簡単にね、ちゃんと言ったことで撤回続いてねこれ全体がそうだ、確かに熱いトークがあったことは事実なんです。女の人これ女の人だって覚えてますけど、だから、それはそれでその直後には謝っておるはずですよこれ。謝ってますよ、それからすぐ記者会見があったかどうか。

ちょっともう1回精査してみないかんけど。帰ってきてから、悪かったとそういう言い方なると、そこまで言ったかどうか知りませんが、

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：私が調べた限りにおいては、この熱いトークもあってよかったということに対する市長は謝罪、ないしは撤回修正はないというのが私が調べた限りの現実です。

ファクトです。もし私の知らないところを調べきれないところで公的な場所でね。

居酒屋じゃいかんよ、公的な場所でもしくは例えば障害者の方とお会いになられて個別に謝ったというのはあるかもしれないけど、大事なことは公の場で発言されたことが、要するに全然修正されていないということを私は指摘をしてるんですね。

市長がこれ言ったことを咎めてるわけではないんですよ。だから訂正されたいかがですかというのはそこなんです。訂正ができないから謝罪もあるよ。謝れと言ってるわけでもないんだ。

この言葉がずっと永遠と残っていくことが問題なんじゃないのということを私は言いたいわけで、先ほどの話で私が調べた限りでは謝ったという事実はありません。(謝ったのはありますよ。)私の中ではないんです。私が調べた限りでは、そしたら私の調査不足かもしれないからね、そうかもしれないけどってこと謝ったってことはもう訂正されるということなんですか、それは違う。まずは違うの。

ちょっと整理するね、喋ってもらうの封殺してるわけでないので整理をします。

私は訂正も謝罪もないと思ってました。今までだけど市長は謝ったよっていうのをおっしゃった。

謝っただとしたらこれは要するに訂正をするというお気持ちがあるということですかという、今質問してるのね。どうぞ。

河村市長：なかなか難しいですね。全体でそのことを評価を捉えたのと、もう一つはなんだ。本当に勉強がなってよかったとそういう意見もありましたから、当の差別発言と言われる部分についてはもザーッと流れててですね。議論になったわけじゃないんで、だから、本当に自分の気持ちを裏切ることはできるのかこれ正しく言ったはずなんだよ。そのときに田口さん訂正し、訂正しろと言葉は言われなかったわ、

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：市長、理解できない、私方の頭がよろしくないのかな。理解ができないのは、市長は先ほど謝りましたよって言われたのって言葉熱いトークもあってよかったのみで締めくくったことには、思いがおりなのはわかったけど、これで締めくくってしまったという現実に対してはいささか引っかかりがあるということをして市長が思ってみえるんだとだから、俺謝ったよって言われたんだと思ったのね。

ということはここで明言して熱いトークもあって良かったってことを訂正しますとおっしゃられなくとも謝ったという事実があるんだしたら、この熱いトークもあってよかったということは、私の言葉にすれば訂正撤回ということに私の表現で言えばそういうことになるんだけど、そういう意思があるんだと、あるんだというふうに私は理解をしたの。だけど答弁を求めたら違うとおっしゃる。私の理解がおかしいのかな。(おかしいんじゃない。) どういうにおかしいんですか教えてください。どうおかしいんですか。

(市長宛てからお願いしますよ)

河村市長：何遍も言っとるのに、そのときに少なくとも私の認識の中では熱いトークで普通の今まで聞いたことのないような今までの討論会ではね、そういう素直な素直なというと怒られるからわかれんけど、意見はありましたから。一つは覚えてますけどねもう一つ二つあったそういう感じですから。

だけど後で、その後何か記者記者が差別発言があったといわれてええって、どういうこと、それはいうことになって、これはやっぱり気分を害されたということについては申し上げなかったところってことはそりゃ謝らんといかんわいかん。そういうことで謝ったということとでございます。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：気分を害した人がおるならそれは謝らないかんと言って謝ったんだしたら熱いトークもあってよかったですねで終わっちゃ駄目じゃないですかってことは、何か違うふさわしい言葉でもう一度そこを訂正をされて、きちんと市民にお伝えになれるべきじゃないですか。

ここで熱いトークもあって終わったことは極めて不適切なんですよ。

これは私の評価じゃないこれはね、私の評価じゃないよ、中間報告の検証委員の評価です。

外部の。

河村市長：そこんところはね、僕はヒアリングの中で言ったはずなんだよなこれ。言っていないかテープ取っていたからありますよ。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：市長はねおっしゃってみえるのは、この中間報告書に書いてあります。25 ページの今私が取り上げてるのはウ評価の部分だけど、その前の検証委員会のイで確認した事実の中で市長が確かにそれをおっしゃってみえるから別にそんな録音テープ聞かなくても、検証委員会はその事実は認定した上で、この評価をしています。(話を取り消せと書いてあります。)

話を取り消すとは書いてないけど先ほど言いましたね公職者として差別にはより厳しい姿勢で対応に取り組んでいただきたいと言ってますね。

もう一つ、そういう話があったんですよ事実あるんですわっておっしゃられるけど、そのことについても触れてますね、検証委員は、差別を表現する自由というものは認められない。そう、そう書いてあるんですよ。(そこまで言いますか、人の頭叩いておいて)

委員長、私が言ってんじゃないです。私が言ってんじゃない、感情的にならないでください、私が言ってるんじゃないの、私が言ってんじゃないの、検証委員会が言ってる言葉を、資料を読んでものよ、我々による資料編じゃない資料に書いてあることを私が読んでもの、差別を表現する自由というものは認められないと書いてあるんですよ。私の言葉じゃないですよ。

河村市長：ここんところは何遍も喋りましたし、ヒアリングの時に、ちょっと認識がこれもう一回議論せないかん。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：はいいやもう市長私ですわ、議論しなあかんってことは、検証委員会のこの中間報告は不服であるから、そこは議論しなきゃいかんというふうに私は解釈したけどそれでいいですか。

河村市長：あなたが取り消せというからじゃないですか。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：取り消せと言ってません、取り消したらいかがですか。

河村市長：いやそれは言葉のいいようであって、不適切だったことと、謝ってすむかすまんかと言う場合もありますけど、発言取り消せというのとは違いますよそれは。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：、私は取り消せと断定してないですよ。

取り消すなり、修正するなり、撤回するなり、謝罪するなり、何らかの方法をとられたらいいかがですかって言うてるんですね、それは私もそう思うし、検証委員会もそうやって言われてるんです。

だから聞いてるんです、私の個人の意見を言っているわけではないんですね、それについては答えましたって葛谷委員の質問に対してお答えになった。それは田口さんに答えたと、田口さんも何か発言されたいということでそれもそろそろ終わりますが、そのときは田口さんの質問にはそう思ったかもしれないけど、検証委員会でここまで断定してね、市長の発言に対してやっぱり問題があるということの指摘を受けてるんだから、そこは今後障害者福祉をやっていく上で誤解を恐れ、誤解を与える恐れのある発言だから、別に訂正するなりして修正するなり、その方法は市長さんがお決めになればいいと思いますよ私も。

されたらどうですかって私は言っただけなんですね。

だけどそれをなんかそんな喧嘩腰に言われちゃうと、茶の木畑に入ってっちゃうからね、あんに言われたないわぐらいのこと言われちゃったので今だからそこまで言われちゃうと、もうこれ委員会の議論議会の議論ではなくなってしまうので、市長さんも選挙で選ばれてるかもしれんけど、私も選挙で選ばれて出てきた代表だからね今この日ここで、この4月の選挙で、それがあなたに言われたくないわ的なこと言われちゃうと、これ以上議論ができませんから、終わってきます。

(あなたに言われたくないとは言ってませんよ。)

横井利明(自民・南区)：今の市長さんが新技術として尺取虫や、リニアモーター、これはもう近いという発言をされたよね。もう1回言ってもらえませんか。いいとこまでいって行って言ったじゃないですか。

いいとこまで行ってんだね。ちょっとそのことをもう少し話をしてもらえませんか。

河村市長：一番最初は、どこですかね。京都のぐらいまでいってもと思いますけど。

具体的な名前は出せなくてという約束だったもんで、ずっと出さなかったんですよ。

この尺取虫をというのを仮称ですけどね、その方法で上がっていけるようにすると、こういうふうな車椅子そういうのを付けてそれ一つ。だから、これは役所とも一緒に行きましたからその業者さん、そういうこともあり、そしたら実験ができるようにということであれを作ったわけです1億もかけて、その後リニアはだいぶやりましてこれ、こないだまでまた来ていただいたんですよ。リニアのこれ今度の大阪万博で出す予定だといわゆるワイヤーのないエレベーターみたいな。これが、ぎゅにゅぎゅにゅいくわけていやだいや水平のとも行くわけて、リニアで誘導しながらそう言ってましたよ。だけどまだすぐできるかどうかわからんから3年。3年か5年だと言ったと思いますがね、ちょっと不正確ですけど、そのぐらいはかかるかもしれないことは言っていました。だって何とかやりたいと。それリニア学会があったじゃないですか。

そのときにもお見えになった。主にあるのはそれと、それから、いわゆる昔の籠みみたいなものでね。

人力でありながら、みんなでパワースーツで上がりやすくする、これも相当有力だと、なぜかというところのみんな嫌がるかわからんけど、もし火事とか火事より煙が危ないってました。そのときにやっぱり人間がたくさん集まってやった方が、疲れるもんでよ。疲れるもんでよ。そういう技術とか、十分あってそちらの方に非常に期待しとったんで終わってから今のリニアの方は継続しております。

横井利明(自民・南区):市長さん、質問者みて喋ってくださいよね、よろしくお願いします。僕も市長みてちゃんと喋りますからね、ありがとうございますところで、なぜ私がこれを聞いたのかというと、MHIのこの契約は、もう既に債務負担行為で認めてるんですね。今回2月補正予算でMHIの開発費予算として、7800万、予算計上されてるんです。市長がね。そうすると、いったいそっちはどうなっちゃうのかなと。たった3年5年で開発ができるのであれば、これがお城できるまでにまだ10年とかそれ以上かかる可能性を今指摘されてるわけですよ。だったらこれで7800万円お金かけて全く無駄にしちゃって、尺取虫やリニアモーターになってしまいうんでしたら、なんて今回補正予算出すのかなと。非常に不思議なんです。この辺りのちょっと整合性がないので、ちょっと教えてもらえませんか。

河村市長:ここは難しいところで、やっぱり今回の入札はしばらく待つと、入札というかコンペは待つということもないわけではなかったですけども、反対に今の尺取虫がリニアが確実にではないもんで、はっきり言ってまだ。だからとりあえずやっていこうかと。やれるところからやっていこうかという

横井利明(自民・南区):じゃなんで確実にじゃない話をここでするんですか。だってさっきから将来バリアフリーが本当できるんだって市民の皆さん思うし、僕たちだってみんな尺取虫やリニアモーターカーでできるんだなと思って聞いてましたよ。そしたら今度、それはそれは絶対じゃないとおっしゃるから一体何が本当なんですか。いやね、だから市長の話ってねいい加減なんです。できるかできんかわからんことをここで喋られたら困るんですよ、できることを喋ってもらわないと、我々市長の喋ったことを根拠にして議論してるんですから。そういういい加減な話はやめてください。そうすると、リニアモーターと、尺取虫が3年から5年で視野に入ると、いうことであれば、今回の補正予算の扱いはこれ、どうなるんですかね。必要がないというふうに我々が解釈してもいいのかそれとも市長としては、このMHIのこのシステムっていうのは、なんか腹に落ちてないと。これがベストではないと。ちょっと変えたいなって思っているんだしたら、それを我々に教えていただかないと、ちょうどこれ補

正予算で予算出ますから、ちょっとその真意がよくわからないんです。ちょっと教えてもらえますか。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：：ちょっと若干ずれてる感じがするんだけど、私もねそこを聞きたいななんていうか、なぜかというときさっき市長は、ようはそういう新技術があるんだから、設置しないという項目の話をしたときにね、それを説明したって言われたから設置しないっていうのが出てきたわけでしょ。

どこでそれが先ほどずっと聞いていただいた通りなんだけど、あの討論会と繋がっていくのに、行くのに、要はそういう選択をせずに討論会を開いてしまってるわけですよ。

だから当然そのところは聞きたいな私は、以上です。

横井利明(自民・南区)：僕これが結論で聞いているわけじゃないんですよ。

ここから人権のところまで話を持っていこうとしてるわけです。

ですから話を最後まで聞いて、それから判断していただけるとありがたいです。

続けてください。

河村市長：私いったところで尺取虫の方の方は一応リタイアされました、リニアの方はまだ続いておりますと言っても、大阪万博がまだあるんでとというような段階です。

なぜ、絶対とは言えませんよね。

だけどやっぱり挑戦していくと、こういうものに、車椅子でそのまま上上がっていく技術これは普通の民間のうちでも使えるようになりますこれがうまくいきますとこれは、ということに挑戦していこうと。

いうことなんであって、これはしょうがないですわ。

三菱のあの方であればですね、これは名古屋城もありますけど、他でも使えますからね仮にあるとするだから、オールオアナッシングみたいなものではまだないということだから、これはこれでまずやってみようかと。だけどまだ上までどこまで上がってくれるかどうかははっきりわかりませんよ。

これ、わかりませんよ、言っときますけど。5階まで上がってくっついていうかもしれんけど、どうやって上がるのか知りませんが、これまだわからないんですよ。

実際、私がかかったところでは、あのやり方でも5階部分は廊下を除いて真ん中の畳敷きの4分の1は煙突みたいな状況になる完全に、通路みたいになりますから。そうなってしまおうであろうということはこれは間違いない。だからそれが本当に、先ほどおことったけど史実に忠実により近いかどうか。これ非常に問題ありますこれは、一番いいとこですから5階というのは。

横井利明(自民・南区)：今ちょっと耳を疑ったんですけど、尺取虫は撤退しちゃって、(撤退というか、)徹底した話をさっき延々されてましたよ。

(いや、そのときはしてませんから、) え撤退したっておっしゃったよね、今(いや出さなかったからですよ。) いやいや、今リタイアしたって言ったよ。

リタイアで撤退で、リタイアした話をさもできるかのようにずっとさっき市長喋ってましたよ。いやだからそういうことがいい加減なんですよ。

(それはあんたのほうがいい加減だから) その議論もねそんなもいい加減な議論の上にまた我々が議論するから(マイクを切ってください。) なんてリタイアした話を発行延々とするんですか。

(市長マイクを切ってください。) あのねあまりにも誠意がない。ボロカスに言ってない。これはね駄目ですよ。リタイアしたって、多分みんなひっくり返ってます頭ん中、

(もうやめてくださいこう一方的なやつ委員長ね。) こういう議論だからって話が全然、堂々巡りなんです。尺取虫やリタイアしたを出す気もない。それをあたかもできるかのようにここで滔々と喋り出すというこの市長の姿勢が社会を乱させてるんですよ。ぜひあの委員長からも注意してほしいというふうに思います。

(委員長、名誉棄損だわ) (市長、マイクを切ってください) (指名してください) まだ質問を質問しますからね。(つぎの時点にいてまたわからんなっちゃうじゃんそれは) (まだ発言は許しておりませんすいませんと。)(そんなこというの断定しないでください。名誉棄損みたいな話で、) 委員長次すぎます。

私がねこれ聞いた一番大きな理由っていうのは、もうさっきからこのねバリアフリーっていうのか、エレベーターなのか昇降機なのか尺取虫なのかかりでモーターなんかここの議論ばかりなんすよ。なんてか知ってます。史実に忠実なっていうことは、これ、エレベーターやバリアフリーのことじゃないんですよ本当は。

ね。

もう木をこう使うとか工法とかね、いろんなその彫刻とかそういったものを全部この史実に忠実にしてくような議論をすべきであって、市長それを全部史実に忠実なのか、忠実じゃないかの境界を、エレベーターに持ってきちゃったんすよ。これだからみんなここに議論が集中してしまう。

この議論が集中することによって、市長は社会を二分して分断して、そして今回の私は今回のこの残念な議論になってしまったんじゃないかなと思ってらんだね。

本来、史実に忠実ですとか忠実でないかの境界はエレベーターじゃないはずなんですよ。

なんでこの市長はこのエレベーター、ここに全部議論持っていくのか。

もうそれどうしても聞きたいんですよ。尺取虫なんかじゃないんですよ議論は。

河村市長：史実に忠実については、一番史実で忠実でないのはケーソンですよ。コンクリートの塊が埋められてますから。だから元々いわゆる徳川家康が作った本当はそのちょっと後の宝暦の改修が作ったものとは違うんですよこれ既に。

これみんなわかっとなる文化庁でもそれはそれでええと、その中でよりですねよりですよ、忠実にやっていこうという戦いなんです。

その中に条文的にも、いわゆる防災については別個の判断をしてくださいよと文化庁ははっきり言ってますがね、そういうことですよ。

ケーソンでも防災の考えがあって、その中でどれだけ近づけていくかという流れの中で、これは真ん中にですね、俺はそんなあれはいいのかどうか知らんけど梁柱 20 本、柱 30 本、逆か柱 20 本梁 30 本それ変えてしまうようなそんなものを作るのはいかんでしょうやっぱりこれ、これは鉄骨造りになるじゃないですか。

そもそも、そんな木造じゃないじゃないかそうだったらだからそういうところで、そういう制限の中でも、宝暦の改修のどこまでより近づけていこうという工夫が、そのエレベーターは、どういう形式はちょっと別としても、やっぱりない方法で上がっていける方法を考えようとうのを考えとったわけですよ、ずっと。

横井利明(自民・南区)：あのね、(市長から一緒マイクを仕切ってください) ケーソンの話ってなかなか聞けなかったので、ケーソンがいきなり出てきたのかなとねいうふうに思いましたけれども。

史実に忠実か、忠実じゃないかってのやっぱりその外観とかね、一般的な外観とか中の構造とかね。

それは様々なものがあると思うんだけど、なんでこのエレベーターが設置されてるかされてないかが史実に忠実なのか忠実じゃないのか、ここに立ってしまったのかってのは僕どうしてもわかんない。

市長がここに焦点ばかり当てるから。

だから、どうしても障害者に対する差別の発言に持ってってしまってるんじゃないかなとかになって僕思ってるわけです。いや関係ありますよ。

マンション答弁してもらってこれね、あのね、市長それ言うだったら、私さっきのこの委員会で申し上げましたよ。この新しい天守ができて、小天守に入りね、いやあどんな大天守なのかと思って小天守から渡り通って大天守に入ったところは、これ A 案 B 案 C 案がありますけれども、例えば B 案は、鉄骨 59 本ですよ、立ってるんすよ。木は 50 本。

C 案はなんと RC ですよ。これあなたが出したものですからね。

A 案については鉄骨と木とも交互に組んで立っている。

そこまで言うんだったら、なんでこんな鉄骨で作るのかなと、構造がですよ。

入ったところの部屋は全部そうですよ。

入ったところって我々、大天守の中に入って一番先に見る部屋ですよ。

その一番先に見るところってもう一番みんな最高潮にドキドキわくわくする瞬間じゃないですか。

その鉄骨 59 本どういう気持ちで皆眺めるんですか。それ史実に忠実なんですか。ケーソンの話じゃないんですよ。ケーソンの上にもそこで全部また、鉄筋這わせてコンクリート全部流して作るわけですよ。

ね。A 案 B 案 C の全てそうです。（いや違います）全てそうです。

鉄筋這わせて全てコンクリート流して安定地盤作るんですよ、全部そうです。

私はね、これを同じ市長が出してると思えないんですよ。

ここまで史実に忠実、分たがわぬ本物を作ると言ってた市長から出てきた案が、そういった案であることも驚愕して本当に市民の皆さんは小天守から大天守に入って、その空間を眺めて、鉄骨 59 本みててどんな思いで僕見るんだろうと。こんなものを作ってこんな提案をしてる市長がエレベーターが史実に忠実が忠実じゃないかっていうその境界に持ってきた理由が全然わかんないですよ。

その境界に持ってきたがゆえに今回私は発言になってしまったと僕は思ってます。

その点について一緒どう思われますか。

河村市長：とにかく。そんな入ってたとこだ何とかがいいんですわ。

一番基礎の上のところですけど、これいろんながあるけどいろいろ苦労しとるわけです。

いろんないろんな技術の中でそれしょうがないんですよ。

ほんだけど、じゃないですよ。

しょうがないじゃん、そうでないと作れないじゃないですか。

ケーソンなんて同じですよ。

横井利明(自民・南区)：ケーソンをやめたらどうですか。

喋ってるときにやめてくださいよね、（喋るとときに聞いたからですよあなたが）ケーソンどうするんだって聞いたら教えてくださいじゃないと喋るとここでケーソンはもう既に埋まってるんですね。ところが、その上に鉄筋這わせてコンクリートを流し込むのはこれからやるんです。

鉄骨を 59 本立てるのもこれからやるんです。

ケーソンと全く違う。ケーソンも入ってるんです。

ケーソンを抜くことによる石垣への影響を考えて、ケーソンを抜けないだけじゃないですか（同じじゃないすかもうね、）（違うよこれからですよもう、）そのときそのそこ市長に僕どうしても聞きたかった。

なんであれだけ本物だとか史実に忠実だって言ってる市長がこんな偽物を作るのかを言ってね、僕これ本当これわかんないんですよ。本物を作ってくださいよ。

河村市長：いろんなこと言っとるけど、やっぱりどうしても調整せざるを得ないわけですよいろいろ。これを条文的にも防災上は別に配慮してくださいよというになっとるわけです。

ちゃんと、ほんでその中にエレベーター作るかどうかは、なぜ松本城にないんだと、なぜ姫路城にないんだと。なぜ犬山城にないんだとになっていくでしょう。

シンボリックになるじゃないですか。そうでしょうやっぱやらないんですよそれは。

皆さんの喜びを考えて、だからそういうねあれがあれがあれがあれが言ってきて、というのはどういふかな。

もう1個、令和2年に文化庁が基準をつくって、あれがちょっと遅れたところが問題なんだけど実は、令和2年に文化庁がはっきり条文としてはっきり出したわけ。

それは、復元と復元的整備を分けてちゃんと復元の場合はず史実に忠実と高い蓋然性とか、高い蓋然性とか、それを求めて作ってくださいよと。その場合は作った建物が新築だから直ちに文化財にはならないけれども、しかるべき価値が与えられると切り替えたんです条文で、はっきり書いたんですよこれ。

それに向かって精一杯の努力をしていくと、今の時点では、そういうことなんですよ。

横井利明(自民・南区)：ちゃらんぽらんですよ。言ってること、松本城や姫路城の話を持ち出して、なんでエレベーターがないんだとそれは昔に作ったからじゃないんですよ。昨日今日作ったわけじゃないんですよ。400年前に作ったからじゃないんですよ。

ところがね、これから作る名古屋城エレベーターばかり議論してるんだけど、これみんなね、そこばかり目がいっちゃってるんすよ市民は。ところが、気がついてみたら鉄骨ばかりじゃないすでか名古屋城、そっから入るんですよ。

市民は小天守から渡り通って、大天守入ってそこが鉄骨が59本立ってるじゃないすかB案は、C案はRCですよ。何作ってるんですか。そんなことやっていて、エレベーターだけいけませんと言うから障害者の皆さん納得されないんですよ。なんでこんな構造やっていてエレベーターだけは別なんだと。

そうすると私が思うのは、市長さんはこの鉄骨のことがばれるとまずいもんで、エレベーター問題を持ち出して、そっちに気が行くようにしておって、これ誰も気がつかないようにして作っちゃおうかなと思ってるのかなと思って、勘ぐっちゃうぐらい僕は構造びっくりしてるんです。

だから今回の問題っていうのはことさらエレベーター問題だけに焦点を当てて、そこに申し訳ない我々議会も、市民の皆様も気を取られてしまい、そしてエレベーターの是非論で社会全体が分断され、その分断された勢いで、障害者の皆様方に非難が集まってしまったと私は推測するんだけど、その推測市長どうですかね。

河村市長：その推測は間違っております。

これはそもそも文化庁が令和2年に初めて条文化したんです、復元という考え方を。

木の文化の場合燃えてなくなっちゃうから。パルテノン神殿と違うんですよ。それでやっていくべきなのかと私達は。その代わり防災上の配慮を十分してくださいと書いてあります。そこでできた建物は今横井さん言ったけど、ようわかっとらんと思うけど大抵、元々あった

松本城、姫路城と同じではない文化財とは直ちにはならないが、しかしと書いてあります。そういう史実の忠実を目指した建物は一定の評価が与えられると書いてあるでしょちゃんと文章読んでくださいよ。そういうのをやってこうという私達の願いなんですよ僕からすれば、名古屋市民としての願いなんですよ。木で燃えちゃったんだから、そうでしょう。残念ながら石の建物は残るんだから、その違いはあるんですよ。

そこを目指していこうと。目指すのかそれともそんなことどうでもいいじゃねかと。かつて某新聞が論説に書いてあったわ、河村がいろいろガタガタ言っとるけど、燃えたじゃないかとそれは国宝一号のお城は、新築建造物だと、新築建造物だからエレベーター付けて社説に書いてあったりしたんです。そういう考え方です。違うんです。それは。そういう場合でも三つあるけど、同じ場所につくる。材料は同じものを使う極力ね燃えちゃってるから木を。それから凶面等がある場合は一定の価値が与えられると文化庁は僕に200年たったら国宝にしましょうと自信を持って復元でやってくださいとこう言ってますから僕に。それを目指していくかどうかという話なんですよ。

いやならいやだっていう人もいますよそりゃ、そんなもんね考えるなど、テーマパークみたいなもの作りゃいいじゃないかと。そうじゃない考え方と、ここの考え方の違いです。だからしょうがないんですよこれは。

僕はそっちの方の本物の文化庁が令和2年に認めた復元建造物をやっていること、せっかく凶面があるから、そちらの方なんです。だからその分断をもたらすとそんな気持ちさらさらしないでですね。

ただ理解をしてほしいと。理解をして宝になるよと。200年で国宝になるよと。名古屋にとってどっちが大切なんだと。

横井利明(自民・南区)：私もね、市長が意図的に分断をもたらせるとまでは言ってないんです。そんな失礼なこと言いませんよ。そうじゃなくて結果的にそういったものを、その市長がやってるその境界線にバリアフリーを持ってきたことによってそうってしまったんじゃないかと市長が故意にやったって言ってるわけじゃないので、ちょっと誤解しないで欲しいんだけど、そういった反省に立った上で、今回のことをやらないと、これ終わらないっすよ。それに市長は真摯に受け止めるべきだと思います。

境界にバリアフリーエレベーターを持ってきたことによって市民が分断され、そしてこういった事件を引き起こしてしまったんじゃないかっていうことを真摯に反省し、その上に立ってどうやって理解していくのか。

市長さん、例えば障害者の差別解消法で求めているのは、全部バリアフリーにしなさいっていうことを、市長求めているわけじゃないですよ。お疲れですか市長。

(疲れません。この議論するんじゃないんです)

市長、ちゃんと聞いてくださいよ。

違う違うこれ全部関係してるんです。だからその市民の分断になって今回の問題になったんじゃないかって言ってるんだから、僕的外れな議論してませんよね。障害者差別解消法これは全部バリアフリーにしないなんて言ってないですよ。（言ってませんよ。）

その通りです。例えば、求めているのは相手と話し合いをしっかりとってくださいと。

そして、相手の希望に応じて対応してくださいと。で対応可能な納得の得られるところから、そして対応していくこととで、不可能なことまでやりなさいってということはこの障害者差別解消法で求めてないんです。ただ相手としっかりと対話するということ。建設的対話が条件になってるんですよ。

そのときに分断してどうするんですかこんなことやって、だからうまくいかないですよ。私はね、市長にお願いしたいのは、いや、市長にお願いしたいのは、分断じゃなくて対話なんすよ。その努力をあなたがしない限り今回のこの人権問題はどこまでも決着つかない。そして名古屋城のバリアフリー問題も決着つかない。

できないことまで、私やれって言ってるわけじゃないんですから、まずそこに努力をしない限り、今回のことは終わらない。市長の最後を、これでもう質問を終わりにしますから。でも変な答弁だともう1回聞かなきゃいかんくなっちゃうので、一度、謙虚に反省をして、今回の事案を、そしてこれからどうやって対話を進めていくのか、そのお考えをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

河村市長：それはとにかく合理的配慮ということをしなさいかということだしね。

それからこれ一つ言っておこか、どっちにしろあれだで、あのときに3人の車椅子の議員さんが来たんです。私の市長室に。10人ぐらいいましたので証人つきです。

1人は民主の斎藤さん。聞いてください。熊本の市会議員、東京の区会議員車椅子の。僕は「斎藤さんよって、俺いままでよ、なんか車いすがいかんとか、どここの福祉施設を作らんでもいいと言ったことあるか」って、どういうことかって名東区の地下鉄のあれだってそうだろうって、ええと言っとるわね。

そうやろゼロだろう、ゼロやないと。そうでしょう言っ、ほんだで世界一とまで言えるかどうか知りませんが、ものすごい暖ったかい街を作るんだとバリアフリーのトップをんだけど、もう一方でこんだけ国宝一号になって凶面もあると完全な、これを何で作らしてくれんのだと言いましたよ。みんなおりましたから。どう言ったと思います。政治ですからといました。みんな聞いてますから。

ええと言ったら、違うでしょうそれ言っという話があった。そこに現れとるんです。

そんな気持ち、なに言っとるんですかいう話ですわ。

名古屋の人間にとってどっちが宝になって将来、喜んでもらえるかということだけを考えるとあって、そういう理解をもらっていくように、今言った話で名古屋城1個だけ例外にできんのこれ天守、駄目なのこれ。それわからんのなんですよ。他でそれはいかんと言った例はゼロですよ。認めました。しょう。

対話は重ねていくと、当然だねって理解をもらうようにすると、そういうことです。

横井利明(自民・南区)：なんでこんなに話ずらしちゃうんでしょうね。  
どうなってるんですかね、ちょっと質問するのも困るぐらい(俺もどうなっとるか)話がちょっと飛んでっちゃうんだけど、私そんなこと聞いてないですよ。  
(どうするかっていうことになりましたので、)私が聞いたのは、今回市長が故意じゃなかったと私は思ってますけれども、結果的に市民の分断を産んでしまってそこに対立が生まれ、こういった事柄に陥ったんじゃないですかと。このことを真摯に反省をして、そして対話に努めるということが今回僕結論だと思うんですよ。だから、反省の言葉も何も無い。何もなかったですよ。  
それやっぱりね、こっから対話が始まるんですよ。  
まずは反省をして、そしてとにかく相手の話を聞く、相手の希望を聞く。  
できる限りの努力をする、できないことやっぱできないんですよ。  
そのところをきっぱりと市長がけじめつけて言わない限り、このことは終わらないです。  
(謝っておりますし、) (不規則発言はおやめください。)

河村市長：ここに書いてありますように、当事者の方にはね、不快な思いをさせて申し訳なかったと。  
いうことは、謝ってるじゃないですか何遍でも。それは申し訳なかったんですよ。  
ただど一方やっぱりあの文化財として残るような、令和2年の基準の復元になるただ一つの建物ですよこれ。それは作らせてくださいよと言って車いすの3人の方にお願いしました。  
申し訳なかったと言ってね、その方に。そうしたら政治ですからというのが返事でした。

横井利明(自民・南区)：わざと外してるのか。いや本当にわからないのか。  
ちょっと僕もよくわかんないっすよ、(俺もわからん。)  
多分みんな目天状態です今(みんなって誰ですか。)  
もう1回言っていていいですか市長。もう1回僕ね、この話がうまくまとまるように努力しようと思って言ってるんですよ。市長のその姿勢を改めてもらって、そして分断から対話に行くように僕は一生懸命言ってるつもりなんですよ。邪魔するつもりなんか全くないです。協力してるんですよ。  
だから、一旦そこで反省をして、自分の自らの行いを含めて反省をして、そしてこれからの決意を聞こうと思ってんだけど、なんか全然違うことをおっしゃるので、このまんまだと結局同じ繰り返しだと思って心配して、(わしも心配して慮って言ってるんすよ。めちゃくちゃなんで、)なんでこんなに外れてるのか。  
全く反省してないのか、(文化財を作ろうと思わんのですか。ちょっとそこは大きいですよ、)委員長全然答えないんだけどこの人、どうしよう、もう1回言いますね市長。  
もう1回もう最後にしてくださいよ。

市長が、これだけのね、木造復元に際して、僕から見たら、史実に全然忠実ではない。

本物とも程遠いものを出されて、私はそれは史実に忠実、忠実と全く思ってません。

問題があると思ってます。ちゃんと本物でやってほしいと思ってますよ。

本来ならそっちの議論になるはずなのに、市長は史実に忠実か忠実じゃないかっていうその境界にバリアフリーだエレベーターだこれだこれだと言って、ことさらこれを強調することによって、エレベーターを使用とする人としらない人で分断してるんですよ結果として、わざとじゃないけど、そのことに対して、反省はないんですかって聞いてるんです。

それと同時に分断ではなくて、今回の文化庁から出された要求もそう。障害者差別解消法もちゃんと対話してくださいよと建設的対話それで言ってくるわけですから、それをしっかりと詰めていきますと、相手に理解を得てできる限り努力しますと、できないことはできるかもしれんけれども最大限の配慮しますというふうに分断から対話に改めることによって動くんじゃないんですかって言ってるんです。

反省と今後の考え方を述べていただかないと、障害者の方に差別的な発言があって、それが申し訳ないそんなこと言ってるんじゃないんですよ。もっと根幹を言ってるんです。

その表面の事象のこと言ってるんじゃないくてそこに立ったものを言ってるわけです。

といってもなかなかポカーンとされてるから、

河村市長：私は対話を重ねようとしてまいりまして、何回、市民集会でたかもわからんし。ただ客観的に若干いわしていただければ、文化庁の復元基準が令和2年とちょっと遅かったんですよ。

これが、だから今言われたように、一旦燃えて新しく作った建物は新築建造物であって、エレベーターつけようがないしね、いわゆる新築建造物のカテゴリーに入ってしまうというような、誤解が生ずる状況であったということなんですよ。

そういう中で本当のものをやっていくということになってきとるんで、私はただ今回のことについては、本当に申し訳ないというよりしょうがないもんだで。

何べんも謝ってるし、どうさしてもらったらいいんですか。申し訳ない、今回のね傷つけたことは、

ご本人にも会ってお話しましたが、申し訳ないことだったという話ですわ。

危機管理上も私もそうかもわからんけど、市役所の危機管理上もちょっと弱かったなとこれはいうことです。それは言ってますがな。話し合っ、名古屋の僕にとってはやっぱり本物も作ってこうかという話です。そういう人たちが多くて、これからもうもう最後に一つだけし言ってしまうと、この間もっと早くださんといっただけど、この図面を作った人、昭和5年に国宝1号になって昭和7年に昭和実測図を作りかけた名工大の学長が一番中心だったらしいけど、名古屋市役所文化庁と名古屋市役所の役人の書いた文章ができたんですよ。そこに何が書いてあるかいうと、昭和16年ぐらい戦争始まってすぐらしいわどうも。

これが戦争で破壊されるかもしれないとお城が、しかし詳細な図面を残していくから、ぜひもう1回復元してくださいとその折には、そうすると市民の皆さんが喜んでしょっと一緒

にそういう図面が出てきたわけで図面で書いたやつ。そういう気持ちですよ私は、実際にありますよ。

そういう気持ちでやると、いうことで、ぜひ福祉の方にも理解をいただきたいということですよ。

横井利明(自民・南区)：大変残念です。

副委員長 田口一登(共産・天白区)：閉会挨拶の熱いトークがあってよかったという発言。市長先ほど、私の去年の6月定例会の質問の答弁読み上げられました。

あのとき普段は答弁書を見ずに自分の言葉で答弁されている市長が、ずっと最初の方は、最初の方は答弁書を読まれてた。

それは、今回のこの事案が障害者の人権を傷つける極めて深刻な問題なんで、さすがに答弁書読まなければならないということだと思ったと思うんですね。それでね、それはこの問題が起こった直後の議会でした。

今日は中間報告が検証委員会から出た後の委員会なんです。ところが、同じ答弁をされた。私は市長の認識が前進していないことに大変残念でなりません。

当然検証委員会は、この6月定例会の議会のやり取りも踏まえた上で、差別発言に対する市長発言について検証されたと思うんですね。

ちょっと市長ね、今日の資料委員会資料の17ページを見てください。

17ページ、差別発言に対する市長のコメントについての主な問題点と評価と、検証委員会はこの市長をのコメント発言について問題点として、討論会閉会に当たって市長が熱いトークもあってよかったと発言したことは、差別発言を問題ないものと捉えていると考えられても仕方がないことであり、市長の認識とこの発言の真意は何かとこういう問題意識に立って検証進められたわけですね。

市長さんにもヒアリングをされておられます。

それをその結果として検証委員会の評価3点ありますけど、この真ん中2番目ですね。

閉会に当たって市長が熱いトークもあって良かったと発言したが、差別発言を不適切と指摘していないことから、全ての発言を良かったとしていると、市民が認識した可能性があるだけでなく、これ市民の認識ですね。むしろ熱いという表現からは、過激で強い口調で差別を含んだ発言を評価したと。

とさえ捉えられかねないため、後日であっても差別発言に、積極的に問題提議すべきだったと、こういう評価がされてます。

今日ですね、当然市長はこの熱いトークもあってよかったのについても聞かれるという認識があったと思うんで、私は市長から少なくともこの差別発言に積極的な問題提起がされるんじゃないかなと思ってたんですけど。討論会直後の議会の答弁のままだから、残念だと思ったんです。

ですから、改めて伺いますけども、差別発言、この熱いトークがあったというコメントに不絡めて差別発言に積極的な問題提起をこの場でしていただきたいと。

河村市長：差別はいけないし、人を不快にさせてはいけませんよ、これは。

だけどあのときはああいう状況だったためにですね、たまたまそうならそれがいいかなんだって、それ謝っとるし、改めて指摘を受ければ、こういうが指摘を受ければ、それは申し訳なかったと。もっとどういうんですかね。きちっと謝る。それでまた、あんときの僕はすぐ一遍伺う行ったんですよ。

車椅子の方のところへ、だけどあんまり言うと感じ悪いけど、いや私らがやりますからということで、役所がそう言ったもんでそう言われると、なんでも行くと言わないもんです。行かなかったけどそれは怒って見えた。怒られました。

あんたがもしすぐ電話でもかけてくれたら解決できたわないって。

だけどそれ、留守番電話になっちゃったけども、もしそうだったら、僕もこういうふうにはしなかっただろうと言われました。それは申し訳なかったとわかっておりますしわ。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：先ほど藤田委員がこの発言撤回をと。私も本当は撤回すべき発言だと思うんですけど、撤回までに至らなくとしても不適切な発言だったと。

今の時点に立てばね、当時はそれはあの会場ではそこまでは認識を覚えなかったと思うんですけど。検証委員会のこういう中間報告が出て、今の時点ではね市長としては市民に全ての討論会の全ての発言、差別発言を含んで全ての発言が問題ないというふうに捉えかねない不適切な発言だったとこういうふうにおっしゃるべきじゃないですか今この場で、そうすればわかります、私理解できます。

河村市長：それは今回のレポート報告書見てもね、全体として捉えかねませんし、やっぱり市長ですから、ざっと流れた発言の中だったけども、もうちょっと捉えていくべきだということで、それは不適切だったとそれは認めます。

副委員長 田口一登(共産・天白区)：不適切な発言だったと今からね、今に立てば。そういう中でこの報告書の中でね、もっかいちょっと見てほしいんだけど一番最後のところ。

コメント評価の市長の立場として、市民の自由な発言を尊重することそのものは理解できるが、公職者として差別にはより厳しい姿勢で対応に取り組んでいただきたいと、検証委員会は市長に求めておりますけれども、どのように受け止めておられますか。

河村市長：もう厳しい指摘ありますよ。

人の頭叩いたらいかんですよそういうことやっては、それと議会でも自公民なみんな同じことばかりやってですね、委員間討論会の名前でめちゃくちゃな質問続けると、(市長あの聞かれたことはもう不規則発言をやめてください。)あれもいかんですよ、

それから裏金曰く、これもいかんですよ本当に。

教育委員会の問題も、いや本当じゃないですかみんなそうですよ。

みんなそうですよね。厳しくやりますよ、ここにもちょっと書いてくれとるんだけど、この無作為抽出で話を聞くというのは、本当のこと言って私からするとほぼ初めてですねこれ。長いですけど、国会のときも、国土交通省が何かこういうヒアリングしたときにやらせだったという問題ありましたね。

だから僕は、本当にああいうところを出てきてもらって、無作為抽出で普通の市民と怒られるかわからんけど、本当の市民が自分の思うところを喋られたということは本当に感謝したんですよ。

よう言ってくれたよと、よう来てくれし、またよう言ってくれたという気持ちは、ここにも書いてくれとるけどももっともいいですよそれは。

それまでいかんのですか。

副委員長 田口一登(共産・天白区)：この検証委員会の報告書のね。

あの本文のほう、本冊子の方でこう言ってます。

市長は差別発言はいけませんが、それよりも無作為抽出で参加した方が発言したということは良かったという思いが強かった。

これは市長に検証委員会からヒアリングした上で確認した事実として、市長は差別発言はいかんと言ってるけれども、それよりも自由な発言をする(よりもそういったかどうか同じぐらい)それよりも無作為抽出して参加した方が発言したということは良かったという思いが強かったというのがね、検証委員会の受け止めなんですそれで、録音聞いてください。

(それよりもと言ったかどうか、同じぐらい、) 当時あのね、委員長ね。

市長ね、自分の言った言葉はもう忘れちゃうんじゃない。

(いやいや重要だからですよ。)

テープどころか、ホームページに載ってます。ヒアリングした全文が、市長に検証委員会がホームページにこの検証委員会の報告書合わせヒアリングしてる全文載ってます。その中で委員小林さんという委員がね、例えば熱いトークもあってなかなか良かったって言うだけじゃなくて、例えば熱いトークといってもやっぱり人を傷つける発言はよくないみたいなことを結果論だけでも言ったらどうですかという質問してるんすね。それに対して河村市長は、結果としてはだけど、そう思っていないもん。悪いけど。

だから熱いトークぐらいの感じになるわけですよ、今の初めのが、我慢せよというのもそれからあと7人ぐらいの方もなかなか実は関心がなかったけれどとかなんとか言って言ってますね、本音的なことを言われたこともよかったんじゃないかなという認識だったんですよ私の。こういうふうにご答えてみるんで、検証委員会は差別発言はいけませんが、それよりも無作為抽出の発言の方の発言したことが良かったと、こういう確認をね事実確認してるんですよ。

河村市長：それいっぺんテープ聞かしていただいてこれは、それよりもこっちの方が良かったという言い方をしたらその文章そんなとるかわからんけど、なかなか僕の認識とすると行ったかもしれない言ったかもしれなかったらそれは取り消してもらわんといけない。同じぐらい値打ちがあると。

僕からすれば、いったとすれば。

副委員長 田口一登(共産・天白区)：いずれにしてもね、熱いトークがあってなかなか良かったという発言が不適切ということははっきりおっしゃったんだったら、さっきのどうするんですかと公職者として差別にはより厳しい姿勢で取り組んでいただきたいという報告検証委員会のね、評価について話を裏金問題まで、

裏金はまた差別とかとは違いますからね、そっちにそらすんじゃなくてきちんとやらないと、結局ね、僕は市長に本当にこの問題で反省してもらわないと、名古屋市の人権施策が進まないというふうに思っているんです。

先ほど横井さんの話もそうですが、本質的にはそこがあると思うんですよね、やっぱり名古屋城の問題で、本物か、本物復元か、それともその障害者への配慮かとそれを両立させようとしたところに、分断が持ち込まれたという問題ある。僕はもうそのことはね今日は聞きません。

聞けませんけども、本当に市長がこの今回の報告書中間報告をきちんと正面から受け止めていただきたいと。そうしないとまた同じことを繰り返される危険があるのでね。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：無作為抽出の話でまた田口さんとおやりになってたけど、無作為で意図をしない人たちに集まってもらって、自由そういう意味では自由闊達に議論をしてもらうというのは、手法としてそれがいいのかなのかというのか私ちょっともうこういう事態に至ると少し自信がなくなるんだけど、その手法がいいかどうかということはね。

ただ今回この討論会について無作為抽出を仮にしたところで、市長さんはここに出席をされない方が良かったって私は思うんです。

市長さんがいるが故に、ちょっと気持ちが高揚してしまって、そういう事態に至ったっていうロケーションもあると思うんだよね。出たこと責任とかそういうこと言ってるんじゃないです。

これは起きてしまったことだから、だからあえてそれの上でお尋ねをするけど、出ない方が良かったっていう選択はあるあると思いませんか、市長。

河村市長：それは何かの席で藤田さんが言ってみえたのを記憶しとるけども、この委員会か。だけど一応市の主催でしょうあの会は、だてそれは僕とすれば、出ていくのが当たり前というか出てこないということはちょっと想像もできなかった、あのときには。結果こうなった場合にはそういうお説のような道があったのかしりませんがね、市の主催のだから欠席したらいかんですよ、そりゃ。

僕はそう思いますけど。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：いやいやそうじゃなくて出ることが義務という考えをすればそうなんだけど、私が言うのは、市長さんは今までの議論を聞いていてね。誰が聞いても明らかなんだけど、とにかく天守は木造にしたい、限りなく歴史に忠実な木造復元をやりたい、実測図の通りのものを作りたいいろんな課題があるとして、エレベーターはつけないというふうにはこの際表現をしますが、新技術で上がることができるなら、もうエレベーターはつけない方が史実により忠実だという非常に熱い思いがあるんだよね。その思いのある人が思いがあるということが明明白白にもわかっている中に、いくら無作為抽出で市民に寄っていただいても、その市長さんが見てたら聞いてたら、どうしてもそっちに忖度して意見は偏るんじゃないだろうか。そうすると出ないという選択は出るに等しいぐらい職責を負ってる行為なんじゃないかなって私は思うけどどうですか。もし本当に無作為抽出で自由闊達な意見を市民のね本音を聞きたいと市長さんが思うのであれば、遠くから動画で見ていただいてもいいだろうし、そこにあなたがいなくてという選択はでなきゃいかんという職務。

との思いと同じぐらいでない方がいいっていう選択も私はあったと思うんですけどね。だから出たことを咎めてるわけじゃないんです仮にですよ、仮に今後があるとしたら、そういう場面では市長さんは行かれないという選択があってもいいのではないかなと思います。が、いかがですか。

河村市長：非常にレアケースであって、そんなときに市主催の会議で皆さん出てくれると、やっぱり行ってお礼の一つも言うというのは、普通はあれですわね。だけど、エレベーターつけると、木造なんかやめてコンクリートでええと言う人もいますからこれ、別に僕はおるから遠慮されるとは思いませんがね。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：いやだからそれは、無作為抽出でない方々の議論というか討論会幾度もやってきてるんだからね、そういうところではそうだったでしょう。だけど今回は無作為抽出だということに価値があるわけでしょう。そういう報告書にも書いてあるけど、国会議員時代のこれは検討検証委員会の言葉だけど、国会議員時代の経験からそのまま出来レースって言葉だけどわからんが、市長はよく八百長ってよく言われるけどね、そうじゃなくて本当にフラットな主張を市民からの意見って言うんだったら、さっき言われたお礼を言いたいと開会冒頭でご挨拶して退席される場合は別に市長としての責務を果たした上で、俺はいないところで自由闊達にみんな本音を喋ってくれて言ったら、無作為抽出の効果はあったかもしれないけど、ずっと聞いてるところだと、なんか市長祭みたいになっちゃってやっぱり意見が言えない。もし思っても、少し言葉を濁してしまう。逆に言うと、木造エレベーターつけなくてことに積極的な考えの方は、ああいう場面で、ああいうことになるんじゃないのかな。

これ人として当然の心理だと私は思うけど、そこを計り知れないっていう人はあんまり私は普通に常人の人間だったらないと思うんだけどさ、そういう方法もあったのではないかと、可能性ですよあってもいいのではないかと思います、市長さんはどう思われますか。なんだったら冒頭挨拶で出てけばいいわけだから。

河村市長：可能性でと冷静に言われれば確かにそうかもしれませんが、なかなかあれてすね。

私はもうかねがね自分のマニフェストに書いてあるし、河村さんが木造復元というのわかってることだしそりゃあ、無作為抽出だから出ませんというのは、可能性としては否定しませんが、大変珍しいことだしと思いますね。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：市長さんのご性格ならその私からの質問に対するその回答が精一杯なんでしょうというふうに思います私もね、違う人が聞くと違う答えになるかもしれませんが、いいですわそれは、最後に、あの最後にね。

先ほどの不適切だということを最終的には紆余曲折しながらお認めになったので、いいですが、聞こえなかったと不快な思いをさせたことは謝ると、だけどあのときに聞き取れなかったとだけど他の発言者に対して熱いトークだったってことは事実だからそれに対して感謝の言葉を述べたと。

なんでもはっきりとそれは聞こえなかったから俺はそういう判断を挨拶したって言われたんですね、一つだけ言うておきます。

それを言葉は聞こえなかったのかもしれない。我が儘、図々しいなんだっけ、我が儘、図々しい、我慢しろ

ね、人は生まれながらにして不平等、不平等という言葉だったかどうかかわからんが、そこで差別用語が出た、その一つ一つは聞こえなかったかもしれませんが、だけどねそれを車椅子利用者の方に浴びせた後にね、拍手が起きてるんです。これすら気がつかないってどんな感覚なんだろうって、なかなかレアですわな市長の言葉を借りれば。それで熱いトークの方だけを評価したというのはあの場面では大変残念だなと、あんなね称賛の拍手が起きて差別発言をした後はワーツと拍手がおきて、我慢せい、図々しいってってあの人の言葉でね、そのときに拍手が起きてたんですね。事実はいいいす拍手があったっていうのは、それだってそれが市長さん言えってことはそこは市長さん認識してられたということだもんな。

だからその中で聞こえなかった、熱いトークも良かったですわねで終わってしまうというのが私は非常に不自然だなと思いますね。

もう一つ市長がいることによって、あの討論会が非常にそういう意味で市長の考え寄りになってしまった

という私の評価ですね、市長さんはなかなか難しいですよっていうけど、無作為抽出を今後評価してね、やってきてさっき田口さんとの話だよ、やっていきたいというなら、せめて挨拶して市長が出ていけばももうより市民の闊達な意見がね聞けたかもしれない。市長がい

ることによって結局結果と市長が悪いわけじゃないけど、悪いわけじゃないって言い方もあれだけど、配慮してほしいと思うな。それによってああいう偏った場面の中で差別発言が起きて拍手が湧くという異常な事態になってしまったという、一度可能性で、この件、中間報告書をもう一度よくお読みをいただきたいなということだけ申し上げておきます。市長さんに対しては以上なんですが私は。他の先生わかりませんが、ちょっと当局にも最後確認をしたいことがあるので委員長そのようにお取り計らいいただきたいと思います。

うかい春美(民主・中村区)：皆さんが様々な問題点を挙げてですね、市長に言ってくださいましたので、私も改めて新しいことで質問をするということはなかなかないんですが、最初から藤田委員の発言されたところの市長のコメントですね17ページの、そのところはやはり一番問題であるなというふうに思っていたものですから申し上げたいなというふうに思います。

それからその前に一つ先ほどその車椅子の障害者の方に謝りに行ったとおっしゃいましたね山に行きたいと言ったと。そしたら職員が私達が行きますからといった、そのそのところからちょっと問題がありますよ。

やっぱり自分が本当に悪かったなとお詫びしたいなと心傷つけてしまったなとそう思ったのならば、いや、私が行くとそう言っていかなあかんかったなあですね、終わったことではありますけれどもやはりそういった姿勢が大事だなというふうに思いました。

そしてこれってあれですよね検証委員会、差別に係る検証委員会っていうのは、総務局が設けますからやってくださいって言ったわけではありませんよね。

名古屋市が設けてやりましょうと言ったわけですよ。そうですね。

室長：はい私ども市としてですね反省すべきことでございますので、検証すべきということで開催してございます。

うかい春美(民主・中村区)：そうですね、重要、本当に重要事案である名古屋市民の心の問題である未来を担う子供たちの生き方の問題でもありますので、本当に大きな重要な問題であるので、市として検証委員会を設けて、そしてしっかりと総括をし反省をしてこれからまた新たに進んでいこうということをお願いしたわけですねということは市長がお願いをしたということですねそうですね。市の名古屋市の責任者でありますから、そうですね、そこに出ていて、検証委員会が、検証したこの討論会ですか出ていた一番最高の責任者は市長ですね。市長ですね。そうですね。だから市長は全てにおいてやはり責任を負うわけですね。この再発防止に向けて取り組むべき事項のところですね、職員研修の充実とか市民事業者の障害および障害者理解の一層の促進、対話によるバリアフリーを推進する仕組みの整備とこなついろ書かれていますけれども、一番大きな責任を市長が何をこれからされるのかと、このことに対しての反省して取り組むべきことは何かということで、17ページの

ところに、差別発言に対する市長のコメントについての主な問題点と評価というのを挙げてくださっています。

これも皆さんが、藤田さんも田口さんも皆さんが挙げてくださっているんですけども、ここに書いてある評価のところに書いてあることは、やっぱりしっかりと受け止めて、これからやっていかなければいけないと思います。

この中間報告を踏まえ市として早急に行うべき対応策について検討を実施していくよう努めるべきである、こう書かれています。

市長は真摯に受け止め、これを実行されないといけないと思います。一番最初に最初のところには、仮に当日発言が聞き取れていなかったとしても、記者会見等で差別は許されないという立場を明確に強く表明すべきであったと書いてあります。

先ほど、不適切であったというその言葉をおっしゃいました、ということは、そのことをここでさっきやっと皆さんがね言うてくださって、最後に不適切だったとおっしゃったんですが、これはやはり記者会見できちんと表明すべきであると、皆さんご存知ありません。

これをインターネットで見た方、それから今ここにいらっしゃってる傍聴の皆さん、そして委員たちはわかります。でもそこにいらしゃった討論会にいらしゃった皆さんや、そしてこの議案をテレビ等で知ってどんなことがあったのかということを知っていらっしゃる方、その方に対してやはり、広く、不適切であったということを表明すべきであると思います。

またこのつ目に、後日であっても差別発言積極的に問題提議すべきだったということは、そのこともきちんと記者会見の中でおっしゃって、不適切であったということ、それがあってこそ3番目のですね、公職者として差別にはより厳しい姿勢で対応に取り組んでいただきたいという、この思いを受け止めることができるのではないかと思います。記者会見で定例の記者会見を開いてらっしゃるわけですからきちんと表明をされるという考え、いかがですか。

河村市長：言わさせていただきます。ただ気持ちの根底にある本当に無作為で出てきてもらってですね。

女の人が中心だったけど、自分でああいうところで意見をちゃんと言ったことは、本当にこれ感謝してますからね。ないですから今まで何十回とありましたけど、みんな同じグループばっかになって、そのことだけ頭を入れてくださいよそれは。それも全部否定してもらってなんということとはちょっと違う

うかい春美(民主・中村区)：その思いをおっしゃればいいんですよ記者会見であのときに熱いトークもあってよかったと。言ってしまったのは、こういう思いがあったからだ。だけど、障害を持っていらっしゃる方、あのときに参加されて不規則発言を浴びせられた方、本当に申し訳なかった。

名古屋市民の皆さんにもきちんとこのようにお詫びを申し上げたいとされた方が、今後の市政運営についても、全てのことについていいのではないかと思います。よろしいですか。

河村市長：承知しました。あんまり言い訳言っかんけど、確か相当言ったはずですよあれすぐ。

すぐ1日2日のうちに、そういう気がするんですけど、証拠がないかもわからんけどと思いますけどね。わかりました。

うかい春美(民主・中村区)：言い訳にならないようにされて言葉も選んで、きちんとやっていただきたいと思いますし、記者会見していただきたいと思います。もう一つ前にですね、金メダル事件のときでしたか藤田委員が団長でしたね。

そんなときに人権のことに對して研修を受けてきましたっておっしゃってました。

どこでどのように受けたかって内容は、お尋ねしてもお伺いできなかつたんですけども、そのことも踏まえながら、さらに人権に對しての考えを深めていただきたいと。

そしてこれからはこんなようなことが、市民の皆さんにご迷惑かけてるご心配かけてるわけですから、そういうことがないようにしていただきたいというふうに願っております。以上です。

近藤和博(公明・緑区)：すいません私も端的にお尋ねをさせていただければと思います。

今様々委員の皆さんから議論があつて、私も当時の状況がそういうことだったんだ、河村市長の理解もそういうことだったんだっていうのを少しずつわかつてきたところですけども、改めてちょっと事実の確認だけさせていただきたいんですが。

私やっぱりどうしても腑に落ちないのがな、なぜ討論会にしてしまったのか。

やっぱり意見交換会であり、例えば市長さんは、市民の皆さんの生の声を聞いてみたかつたっていうけれども、それは討論という市民と市民が、ある意味で議論を戦わせる方式じゃなくても、十分に聞く方法があつたと思いますが、何故にごめんなさい、市長は討論会にこだわられたのか、この辺を教えてもらえませんか。

河村市長：先ほど言いましたように討論会に私はこだわった記憶はないんですけどね。

近藤和博(公明・緑区)：結果として討論会になつてるじゃないですか。

私が申し上げたいのはその討論会で行こうやと決めたのが市長だと思ふんですね。

役所が討論会で行きましょうってなつたかもしれません。

でも最終的に討論会で行きましょうと決めたのは市長ですけども、何故そういう判断をされたのかということでございます。

河村市長：市民の意見を聞くべきだと議会の答弁、議会が言われとるんでやりましょうと。

なって、そこでこの名前と、この無作為抽出についても、よう覚えとらんけどな本当に、ひよっとして、無作為抽出でやったらどうだぐらい言ったかもしれんけど、ほんなら、いろんな意見が来てるから。

可能性はあるけどそうとも。

はっきりした普通は結構覚えてますけど、そういうとこあんまりないんです。

近藤和博(公明・緑区)：論会ですから、先ほど申し上げた通り今回は昇降機に対して賛成か反対かという意見を、ある意味討論する、議論を戦わせる場になるわけですよ。

その戦わせるということを承知した上で、市長さんは討論会というものに判を押された。

ゴーサインを出された。

こういうふうを考えるんですけど、市長さんそんなイメージで討論会を考えておられたんでしょうか。

河村市長：よくわかりませんが多分やっぱり無作為抽出をやりますんで、いろんな意見が出てくるでしょうと。従来にはないようなだから、それぞれ思いの丈を十分言ってくださいよという意味だったと思います

近藤和博(公明・緑区)：だとすると、当たり前のように考えなきゃいけないのは、先ほど来皆さん替えているリスクヘッジですよ。危機管理、市長の危機管理能力足りなかったとおっしゃられたんで、そういう認識はあるかと思うんですけども。

例えば本編の25ページのところに、検証委員会では、名古屋城木造復元天守におけるバリアフリーに関する検討に当たっては、以前から、障害当事者からの意見とそれに対する差別的言動を含む意見による激しい対立があることがわかっており、障害者対市民という市民を分断するような問題になることが懸念されていると言われてるわけです。

近藤和博(公明・緑区)：こういう認識を私は市長さんが持ってらっしゃったかどうかちゅうのを聞きたいんです。

河村市長：なかなか全員が全員、了解してくれるとは思わんけど、粘り強くお話していけば、宝を残すこともいいじゃないかと。わかってくれるんじゃないかと。

そういう私は、今でも思ってますけど、

近藤和博(公明・緑区)：このちょっと答弁がずれましたけれども、もう一度確認しますけれども、先ほど読み上げた文章、障害者の皆さんに対する差別的言動を含む意見による激しい対立があることを市長さんにご存知でしたか、それとも全く知りませんでしたか。

河村市長：：それが激しい対立というのかどうかわかりませんが、デモやられましたし、市役所の前でね河村出てこいといわれましたもんで出てきましたけど、話しました。そしたら主に言われたのは、新築だからエレベーターつけようという話だ。いやそうではないでしょう。

燃えたとしてもね今言ったのときは、松本城は仮にも燃えてしまったらどうしてくれる。エレベーター付けないかんのっていう話をして、その団体の方それを覚えておって

近藤和博(公明・緑区)：ちょっとまた全然答弁がずれるので、いちいち修正するのはなかなか大変なので、もう少し詳しく聞きますけれども、この差別的発言が、かねてから対立構造の中であったということをごめんなさい、当局の皆さん、また検証委員会を得られる中で、当局は認識してたんでしょうか。

当局にすいません。ここだけ聞かしてください。

伊藤主幹：はい市民の声だとかいろんなですねお話は聞いてますので、そういった声があるということは認識はしております。

近藤和博(公明・緑区)：市長さんが、差別的発言がかねてからあることを認識されてたかどうかというのは非常に大きな僕焦点だと思ってますが。もう一つ、私は市長としてやらなきゃいけないことは、事前に討論会を行う前に、どういう対立が想定されるのか、どういう意見が交わされるのか。

これは事前に、いわゆる聴取取得しておく必要が私はあったと思うんですけど、そういう行動は市長さん取られましたでしょうか。

河村市長：その話は一遍あったような気もしますがそういうのはやめようやめようと。事前に調整するような考え方は、

近藤和博(公明・緑区)：ごめんなさい、ちょっと内容ずれます事前に調整ということではなくて、市長さんは、おそらくこの討論会を開くことによって、この検証委員会は、かねてから障害者に対する差別的言動を含む意見による激しい対立があることはわかってるって言ってるんですね。

当局もわかった上で今答弁わかってる上で、この討論会を開催しなければいけない、ゴーサインを打たなきゃいけない市長として、事前にどういう展開になるのか確認をしておくべきだと思うんです。

どういう意見が市に寄せられて、どういう反対意見があってどういう賛成意見があって、それを踏まえた上で、討論会を開催するのかわからないのかを判断するのが市長の責任だと思うんですけども、私はその市長の責任として事前にそういうレクチャーを受けましたかと聞いてるんです。

河村市長：受けてません。受けてませんどころか、本当に思うところを話ししてもらおうじゃないかといいました。

近藤和博(公明・緑区)：そう言われると、所本当に思うところを述べてもらわなきゃいけない。

事前にレクチャーを受けなきゃいけないとすると、市に届いているようなですよ。いわゆる市長は事前にレクチャーを受けずに臨まれると、本当の生の意見を聞きたいというそういう思いだったんでしょうけれども。市に届いている意見は、そういう意見も届いてるわけですよ。

だとすると市長はそれを事前にやっぱり確認する責任があると思うし、もっと言ってみれば当局もそれを市長にちゃんと進言する必要があると思うんです。

そういう調整をしっかりとした上で、討論会の開催を行わなければいけないと思いませんか市長。

河村市長：とにかく、何十回となくやってますんで、市民討論会。だから本当にやった場合、途中で人数が少ないから集めようかという議論もあったんです。俺はやめてくれと。また何か作為的になる。

で、やっぱり本当に聞いてみようと。皆さんどう言うかなと。こういう感じだった

近藤和博(公明・緑区)：私みたいな若造が言うのは大変恐縮ですけど、ちょっと考えが浅いような気がします。もう少し討論会をやるわけで、かねてからこういう対立構造があることは市も認識しているわけですからそこには細心の注意を払って、組み立てていかないと、やはりこういうこと先ほどの議論で、偶然なのか必然なのかという議論ありましたけれども、私も今話を聞くと、限りなく必然に起こってると思いますよ。今回の件はちょっとした市長の配慮でこれ起きなかった可能性十分ありますよ。

で、気になるのは、資料編の15ページのところの下段のところ、確認した事実の中に参加申込書の参加動機欄の記述。この中に、障害者に配慮するその考え方に疑問を持ったから、こういう理由を述べられてる方がいるんですね。障害者に配慮するというその考え方に疑問を持ったから、この理由だけでもちょっと私は、当局はしっかりその旨を市長に伝えなきゃいけないし、市長もやっぱりそういうことを事前にキャッチしておかなきゃいけないと思いますよ。

ここの記述中略ってなってますけど、私はこの中略すごく気になります個人的には何が書かれてるのか。

この中略の後に障害者が権利を主張するのでしょうか。権利を主張しちゃ駄目なんですかこれ。

すごいこと書いてありますよこれ。なんでこれは当局も含めてですよ。こういう意見が、参加者がこういう意見述べられるはずですよ。こういう考えをお持ちですよ。当局も言わないかんし。

市長も生の意見が聞きたいというそういう単純な発想ではなくて、やはりここは細心の注意をして、こういうところまで目配せをして、しっかり討論会開催をする、自分が責任を持って開催するわけですから、事故が起こらないように、そこまでやるべきだったと思いますよ。改めて私はそこは十分反省していただきたいなと思いますけど市長はどう思いますか。

河村市長：確かにそういうあれをしようとして手を挙げて、そう言われればそういうことで、いわゆる危機管理という言い方で言うと、福祉の皆さんは怒るかもわからんけど何が起こるかわからん。

今のアンケートでそういう参加動機の話はあの頃は知らなかった。

私は、対応していくべきだったし、これも言いましたけど、司会やとった当事者が普通の無作為抽出はないけれども本当にそれに近い形であるときは必ず喧嘩にならんように配慮してくださいねということは言うんだけど、このときは言わなかった。相手差別発言というのは普通なるもんじゃないそういうこともやらなあかんいうことで、その危機管理上は不十分であったと認めざるを得ませんので、

近藤和博(公明・緑区)：ここは反省されるべき、あのことからかなと思います。

これだけの対立が長い間続いていますので、そこは事前にどういうあの構図になっているのかというのは、当然のことながら把握しておかなきゃいけないかなというふうに思っています。そしてもう一点この討論会前半の議論の中で、この時期早尚じゃないかちゅう話もありました。

藤田委員の議論の中で、尺取虫でしたっけの議論があって、横井議員の中でも尺取虫の議論があって、僕はあの思うところですけども、市長はその尺取虫の技術が、いわゆる現実となったときに、やっぱり討論会なり意見交換会なりこれでどうだというのをやるんなら話わかるんですけど、何故にそこでこういった今言ったような組み立てもままならないまま、討論会を開いてしまったのか、それはやはり8月に予定されている復元検討委員会、ここに間に合わせなければいけないという、こういう強い意思が現れたんじゃないかなと思いますけど、市長はどういうふうにこの時期については考えておられますでしょうか。

河村市長：僕がきいておったのはひとつは議会で言われてるんで、やります。

そりゃそうだろうなど。

近藤和博(公明・緑区)：それはそうなんですけど、その時期が何故に早急にそのタイミングでやらなきゃいけなかったのかということです。

市長さんって、市長さんてコンビニ交付の議論のときに、ずっと最初はちょっとマイナンバー自体に反対かなと思われてたんですけど。

途中からマイナンバーカード自体に反対だという主張になられて、最終的にはスマホで出せるようにすると、今回も総務省に行って、総務省が、僕は経緯は全然違うと思いますよ。けど結果的にスマホで一部出せるようになった。だから今回、マイナンバーカードのコンビニ交付の申請って、予算として出されたんじゃないですか。

何が言いたいかっていうと、市長さんそれができたから、言ってみると10年間反対してたマイナンバーのコンビニ交付をいよいよ予算として上げてこられたと思うんです。

それはそれが一つ形になったからだと思います。

でも、市長さんがそこまで尺取虫だとか、仮にという話をされるのであれば、やはりそれをもって、出してこないと市民の皆さんには、これは早急に急場しのぎで討論会作って、8月の検討委員会に間に合わせなきゃいけない復元検討委員会に間に合わせなきゃいけないというふうに映っても仕方ないと思うんですけれども、市長長さんはそこはどう思われますか。

河村市長：今の車椅子そのもので、上がっていく技術ですねこれ。

これは間はかかるが、しかし尺取虫という言い方が正しいかどうかしら、出しますという明言してましたからねこれ。その業者のでも出てない。ださださなかったんですよ。

本当に裏取ってもらってもいいけど言わんでくれることになってますんで、本当に仲間の役所に聞いてもいいです。言っていましたから。

近藤和博(公明・緑区)：ちょっと逐一議論がちょっと上だとかみ合わないの、ちょっとただ、1個1個修正するとすごく時間がかかっちゃうので、もうあえて市長さんの答弁お任せしますけれども、多分聞いている人は全然かみ合わないと思うんですよ。

聞いていることに対して答えが、そこはちょっと丁寧にお答えをいただきたいなというふうに思います。

私は今回は討論会といういわゆる方式自体も、間違いではなかったんじゃないかなと思ってますし、時期についても、慌ててやるべきではなかった。

しっかりそうしたら事前の情報も確認をされた上で、危機管理もしっかりされた上で、対応もしっかり検討された上でやるべきだったんじゃないのかなというのが一点で。最後にもう一点ですけれども、私も午前中、うちの辻さんと話してましたけれども、やっぱり市長の最後の締め言葉、熱いトークもあってよかったってやっぱりどの議員さんもやっぱり言われてますけれども、ここってすごく象徴的な部分だと思うんです私今回の検証をする上において。田口委員とのやり取りで、不適切だったっていうことも認められました。

不適切だったら撤回しないかんことないですか市長。撤回はせへんの。

河村市長：俺が喋る必ずしもイコールじゃないですから、不適切を撤回するそれはその辺のところ、ところで、僕はお願いしたい。

お願いしたいのはおかしいけど、何べんも言いますけど、要は発言してくれたとみなさん、

近藤和博(公明・緑区)：市長そこ答弁繰り返しになるんで通常不適切だったら取り消さなアカンと思ひそんなことないですよ。藤田委員もずっとそれをおっしゃられてますけどね。もう一つ、先ほど皆さん読み上げられてる部分ですけど、むしろ熱いという表現からは過激で強い口調だった差別を含んだ発言を評価したとさえ捉えられかねないためと評価されてますけど、市長さんがどう思っかっていうよりも、この発言を本当に差別を含んだ発言だと捉えるかどうかちゅうのは、やっぱり当事者がどう考えるかだと思ひんです。

障害のある方々が、市長さんがこういったことによって、そこも含んだ肯定したかのような表現として捉えるか取られないかは市長さんではないし、私でもないし、障害のある方はご本人たちだと思ひんです。

そうすると、障害のある方ご本人さんは本当にこの言葉にどれだけ苦しめられてきたか。

これを考えると、その立場に立って市長さんは撤回をされるべきだと私は思ひんです、市長さんは今答弁で言われますけれども、いや他にも熱いトークがあったんだと、女性の方の例を挙げられましたけど、そのように言ったらうかい人もそう言われましたけれども、この発言は撤回するけれども、確かに本当に価値的な意見もいただいたんです。そこはわかってくださいと。

それでいいじゃないですか何がいかんのか、ちょっと教えてもらえませんか。私は撤回すべきだと思ひます。

河村市長：言ったことを簡単に撤回したりですねいうことはないし、あなたそこにおられたかどうか知らんけど、本当に無作為で来られた市民の方がですね、なかなか私もえらいもんだなと思ひましたよ本当に。

今まで興味がなかったけど、

近藤和博(公明・緑区)：最後にしたいと思ひますけど、例のコンビニ交付の時に奥さんぐらい発言を撤回したじゃないですか市長すぐすぐね、撤回したじゃ、撤回しとったじゃないですか、これだって私は撤回すべきだと思ひますよ。

いやこれはもう今議論するのはいいですけどいいですけど、多分おそらくこのだから、このやり取りを聞いてて、私が申し上げたいのは、市長さんがどこに向かいたいのかちゅう話です。

この検証委員会を踏まえて、今回の事例を踏まえて市長さんは、今回苦しめられた障害のある方とどうやって手を取り合っって対話をしていくのか、どうやって向き合っっていくのか、市民の皆さんみんなそれを見てると思ひますよ。だとすると私は冒頭言っったこれ象徴的な出来事で、こういう姿勢が変わらないと。

発言を撤回しますと。そうじゃなかったです、そういう意味じゃなかったですと。

撤回をしてこういう姿勢を改めないと、今後100の検証したって何の解決にもなっていないと思いますよ。本当に根っこの部分って変わっていかないんじゃないですか。今回苦しめられた方々もそこを見てると思いますよ。市長さんの言い訳を聞きたいと思わないと思います。市長さんの心を見たいと思ってるんです。どういうふうに対応してくれるのか、我々のことをどう思ってくれてるのか。ここを、私は市長さんしっかり改めて検証に臨んでいかないと、この溝は埋まっていかないんじゃないかな私はそう思います。これは意見として指摘して終わりたいと思います。

委員長 服部しんのすけ(自民・熱田区)：他によろしいでしょうか。

市長への質疑はありませんはい、それではこれにてですね、市長への質疑は終わらせていただくことにいたします。

それで今時間も2時間40分ぐらい経過しておりますのでまた、当局の質疑、入る前に、一度休憩を取らせていただきますので、よろしく願いいたします休憩5分程度とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

委員長 服部しんのすけ(自民・熱田区)：再開いたします。

それでは、休憩前に引き続き、ご質疑をお許しいたします。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：大変長い間何も得ていないという。

のことなんだけれども、ただ今市長の発言をずっと聞いている、よく私の中での確信がよりより何か硬くなった固まったというかね。

ちょっと身内で褒めあっても過去のあれだけど、横井委員が委員長進歩したと思うけど、ほぼほぼ名古屋城の話だったけど、ただ職員の意図がよくわかって私は理解してるつもりで、結局思いが強すぎる。

市長のうん今回冷静にあまり感情論にならずあちら様なんかえらい感情論になっておられたけど感情的にならずに、客観的に検証したいという思いがあったので調査にあえて来ていただきました。

その上でちょっとお尋ねお尋ねというかね、私からのちょっと考えを申し上げるが、まずちょっと所管の担当者の方でいいんだけどちょっと私これ全部今読み切れなくていうか、ちょっと拾いきれないけど、この中に、要は職員なり、周囲から関係者からね。

簡単な言葉で言えば市長に対する忖度。それは職員の中でも、それから先ほどその設置というのに、最終的に落ち着いてしまった。

設置しないというアンケート項目に最終的に落ち着いてしまったところがなぜそれがそこに置いて結論が落ち着いたかが不明なんだよね結果的にだけどそれで、市長も納得を形式的には納得をしているということもよくわかりました。

本人はね、ご本人は言った覚え覚えがないという言い方をしたけど、客観的な事実としては、結局そこに落ち着いてしまったということはよくわかったんだね。あんだけめちやくち

やなのやり取りにも思えたんだけどそこちょっとできるだけそういう個人的な感情を除いて聞いていたらそうだなと思ってそれ以外にも、おそらく職員の忖度があると思うんだよね市長に対するこの中間報告の中でそれを何かなんて言うんだろう、垣間見えるところっていうのは何かあるかな。市長にだけに限らない。

その討論会に参加して要するに関係者業者も含め、だって民間業者も最初にやろうとした提案が途中で当局の意向で二転三転しているという指摘もあるわけですね。

で、先ほど近藤委員はみんなほぼ方向の委員の皆さんはそこのところに言及はしていないけどほぼ確信を持っていて、近藤委員があえてお尋ねいただいたと思うんだけど、結局8月の文化庁に間に合わせるために全てのスケジュールが無理強いを強いられてる。それも指摘されてることだね。

なぜ8月に間に合わせなきゃいけないんだ。

要は、1日も早く木造にしたいからでしょう。

だからエレベーターのいう形の、非常に私の表現で言えば非常に乱暴な結論になってる。

で、それを当の市長ですら吟味をしたという痕跡がないことは先ほどの発言で明らかなんですよ。

ご本人はそういうつもりで答えてないかもしれないけど、私はそういう評価だったね。

ということはやりたいという思いが強すぎるがために、周辺がそれに対してもう過剰な忖度をした結果が今回のこの結論なのではないかなというのが私のこの委員会で少ない果実の中の一つなんだけれど、ちょっと客観的にどうだろうか。

伊藤主幹：調査にあたりまして、関係の全ての資料取り寄せヒアリング等してありますが、今言った忖度というふうな部分は、資料とかヒアリングとかでは、あのなかったのかなというふうには受け止めています。

あと、ここの報告書で市長の意向が、職員の意識に何らかの影響しというふうな、それが忖度なのかどうかというのは受け止めています。市長の意向が何らかわからないですけども、意識に影響という部分は、あの報告の方ではされている

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：忖度というのはあくまで私の言葉ではあるけれど、であればね。最終報告に向けての検証委員会についてはぜひ、その部分にも想定は焦点を当ててもらって、ね、その職員と市長の意向というかそれはもう、私が言わなくても、もういっぱい喋ってくれたじゃん本当にいっぱい喋ってくれたよ。

言わなくてもいいことまでそれはもう横井委員が引き出していただいたと私は思ってるんだけど、だからあえてね、あの鉄骨みたいな話まで、いやもうこれ経済水道の議論かがあって、瞬間思うけどだけど最後最後の趣旨はそこじゃないからなっていうことは私はわかったたので。

委員長にも申し上げた方があえてもうちょっとね、ああいう申し上げ方をした。

我々そんな所管を超えて委員会やるなんていうのは無茶なことを少なくとも30年27年ね、我々やってそんなあの1期生2期生じゃないんでそれはよくわかってます我々。だけどそれがいつになったかと2時間の間にね、だから次の最終報告までの間の今後の検証には、ちょっとその市長との関係というのをもう一度きちんと検証していただきたいなというふうに思いますがどうですか。

れ担当主幹でいいんですか。

室長：はい今藤田委員がご指摘いただきましたように市長さんの発言も踏まえながらですね、市長さんと名古屋城の事業の関係性だとかも含めまして、当然その部分を加えてもですね見ていく必要があるかと思っておりますのでそういうことをしっかりと検証委員の皆様方にはご説明申し上げまして、検証を進めていただく議論をしていただくのかなというふうに思っております。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：そこに私は何か真髓があるというふうにより今日確信したんだよね。

うん、ロジカルな組み立てじゃないっていうことがよくわかったんでね今日。当局も含めて要するにそれは観光文化交流局も含めてだよ。

本来あなた方でやる仕事で私ね27年の経験の中でね、そんな見たことない、ほぼ見たことないんだわ。あの市長肝いりってなるとなんかちょっとね、あの地域委員会のときもそうだし、いろいろあったね、でも結局そこが真髓なんだなっていうことで今日本当によくわかって、ただ我々がここであのやり取りやってもああいうふうだからさ、何ともしようがないんだよね。

だからやっぱりそういう意味では、検証委員会で今の市長との関係性っていうところはちょっとやっぱトピックにするべきだと思うよ。ぜひそれをお願いをします。

それでもう一点、先ほど私は文化庁が木造以外は認めんという話をねしたけど、これについても今の市長このやり取りを聞いてこれも私はね、あの硬い確信に変わった。うん、要は木造にしたいんだ。

何が何でもそれは、要するにその実測図がある貴重なね、いやわかるんだよ。

その心情は、我々も理解ができないわけではないんだ。

あの戦中のあの混乱の中で、もう空襲がいよいよと。

これちょっと議案違うけど、空襲の日もいろいろね、紆余曲折もいろいろあったが名古屋城焼失の日っていうことでね、そのことの結論に云々ということではないんだけれど、あの時代にその実測図を残してふすま絵だとかをね避難させたとかね、やっぱその先人の思いってのは私も重く受けとめますよ。それはわかるんだ。わかるんだけど、そのその思いがあまりにも強すぎて、なんていうんだろそういう気持ち先取りかっていう話をしたけど、論理的な議論ができないまま、もうその当時の本会議道義までさかのぼっての話だよ。

非常に乱暴な結論付けをずっと繰り返してきてると思うね。

その集大成的なのが今回の討論会みたいに私には思えてならんね。

ちょっと大変失礼な言い方になるかもしれんけど、無作為抽出って市長。拘わってたけどね。これ、たまたまだと思うけど、そこに車いす利用者の方が見えた特に名古屋城のこのバリアフリーのことに關してある意味お詳しい方が、たまたま参加者にお見えになった。ここに作為はないね、たまたまお見えになったこの人がいたがそこに差別発言が浴びせられた。

だからこれだけの問題になってる。

これね展示で考えたらさ、例えばその人がいなくてこの議論がああ議論がだよ。

その際、いない状態で起きてたら、仮に差別発言がそこで出たとしても、ここまでの話にはなっていないんじゃないかなって思うとぞっとするんだわ。却っていなかった方が、ちょっと事態が深刻だったんじゃないかなって。だってエレベーターはとにかく限りなく5階までっていうのでんできたけどさっき設置しないというような話でね、なんか土壇場になってそれまで積み上げてきて何回も説明会やったと言ってたよ。もうわかってるよ、それも指摘されてるからね。

そこまでやってきて結果5階まで限りなくね、どこまで上がれるかというところに、もうギリギリ来てたわけだよ。そしたら討論会ってなったわけだよ、無作為抽出、今までの集まったのはそういう関係者だ、だから無作為の市民集めてやろうってなったわけでしょ。そこでひょっとしたらまた考えがひっくり返るかもしれない。

だから設置しないあれも入れとかなきゃいけないがね、もう計り知れるんだよ、さっきの市長の答弁聞いて。これ私の感覚だけど、あの人がいなくて、この問題がそういうに論じられて障害者のわが我が儘だ、我慢せい、凶々しいっていう話だけが独り歩きしてたら、とんでもない結論になってたんじゃないかなってしかもそれで昇降機はつけませんって結論になってた可能性があるでしょ討論会で、そこで結論付けるっていう位置づけの討論会だったもんな当時は、本会議で答弁したぜって市長があえてわざわざ言ってくれたけど、あそこの本会議の答弁は、もうこの議論に決着をつけようまいという趣旨の答弁だったよね。でこの討論会だよ。たまたまこうなった。

もしそうじゃなかったら、そのままの結論で走ってたら、皆さんどう思われます、恐ろしい結論だったと思うね。横井さんの委員間討論らんけど、俺聞きたいな北角さんに。とんでもないことになってたなって思うんです。だからやっぱり遡るべき。

この検証委員会で、その原点にまでうん、事業の是非ということではないことはわかっている、あまりにも名古屋市の事業の進め方に、そこの途中から車いすの問題が出てくるんだけれども、やりたいって思いが強すぎて、市長が強いがために、とてもそういう乱暴なとかね。だって今の皆さんやり取り聞いて思ったでしょ。人の話聞かないんだもん。

こっちがためを持っていても、ああいうふうなもうん、だからこれはね危険だなって。ぜひこの二つは実施していただきたいと思いますが、叱るべく答弁をいただきたいと思います。

局長：今委員からですね職員と市長との関係ということを特にクローズアップをして検証すべきというご意見。それからかなり過去までさかのぼって検証すべきというご指摘いただきました。この検証委員会、あくまでも何度も申し上げておりますが、差別事案に係る検証ということで、今回の中間報告はその当日に限って報告をさせていただいたんだということでございますが、あと残っている課題の中にはですね、今委員おっしゃったように、職員がですね市長や様々な立場の市民の方からの意見にも対応する必要があって、そのために苦悩や葛藤も少なからず抱えてきたと、そういったことについても影響を与えたのではないかとということの問題提起をしております、そういうことについても迫っていきたいという今後の検証に向けてそういうことが書かれており、そういったことも当然、議論されることになっていくと思います。過去に遡るといってお話がどこまでというのは、また委員の皆様とですね議論するということになりませんが、今日ここで委員の方々と、それから市長とやり取りをしたということも十分踏まえて、そういったこともお伝えしながら、どこまで検証していくか検討してまいりたい。今確定的にですね、当初まで遡ってということをお約束できるかどうかというのはちょっと自信がありませんけれども、そういったことをしっかりとお伝えしまして、検討。していただくように努力したいと思っております。

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：ぜひやってほしいと思っておりますし、私は今日はここでそれを求めるにとどめておくけれど、そういう意味では別に予算に関わる話を今からしたいわけではないが、令和6年度に当然伸びていくというか、令和6年にもかかって、この検証をやっていくのはもうあの事実なんで、それ先ほどの夏ごろという話があったがそういう意味では。私が今求めていることをやると、夏ごろが適切なのかどうかというのもまた出てくるというふうに思うので、私はそこは2月定例会の予算の中で令和6年度事業の中できちんと問い質していきたいと思うから、局長さんでできればそれぐらいね検証委員の方々にもご意見聞いていただいて、私はこの中間報告については先ほど団体があってよく推測団体みたいな話だけど私は本当にあの複雑な、あの職員の心理だとか、いろんな周辺の背景を非常にそういう意味では論理的に、まず、かつ、あの何て言うのかな適切な言葉というか、よくこういう表現でまとめていただいたなというのは私は思ってるんです中間報告。だから検証委員会の検証結果の質というか、クオリティは私は非常に評価をしています。

だからこの、この評価をしていただけるメンバーであるなら、私はぜひ今言った、もう、もうとことんさかのぼってね、この市政運営この事業のあり方やり方が本当に正しいのかっていうところまでもやらないと多分このね人権問題ってね解決できないと思うんです、名古屋市政の中で、市長が言ったのはこういうことじゃないことやる絶対やりますやらしてくださいっていうけど、なんかそれって今この問題をきちんと総括せずに、何か目の前に違う人参ぶら下げてそっちにみんなの目を向けさせて、今回の方を何かだっさっきの答弁そういう感じだもんね。

全然だから自分としての自制なり自分自身の検証がもうできてないんですよ市長さん、私見  
てて思ったけど。いや俺はこれで貫くっていうなら貫くなり何かロジック持ってほしいな  
って思うけど。

相変わらず横井委員、辛抱強くなったなって思うけど、全くオウムのごとくの話でこれでは  
全く反省してないってまた俺が言ったって言われた、そういうこと呼ぶ声があったけど、私  
も少なからずそう思うよ。他人ごとのように聞こえた私も、だからぜひちょっとそういう意  
味で検証を。検証の検討をしていただくようお願いいたします、私からは以上です。

ぜひ委員長、私は委員間討論は求めませんが、今私が言ったような内容で、委員会も含めて、  
当局にも進んでいっていただきたいと私は強く願っているし、強く要請をするがいやそれは  
藤田さん違うだろうって意見があるんなら、ぜひここで私に委員間討論を求めていただきた  
いなと思います。

うん、私から委員間討論をやるっていうとまたなんか、さっき人権侵害だとか言ってたじゃ  
ん。

だから逆にいや違うよ藤田さんそれはっていうね、意見があるなら、いや全部だよ。

ええから続いてそこは認めるけどそこは違うんじゃないっていうのまで含めてぜひその機  
会をとって下さい。でなければ、それでいいんだっていうふうに私も確信して、当局も自信  
を持って進んでいけると思うんでね、ぜひそのあと逆に私に聞いてください。

それをちょっと皆さんにお尋ねしてください。

委員長 服部しんのすけ(自民・熱田区)：それでは今、藤田委員に何かご意見ある方ありま  
したらご発言いただければ。いいですか遠慮なくどうぞ。宜しいでしょうか

ふじた和秀(自民・瑞穂区)：ではないので、委員会の総意とまでは言いませんが少なくとも  
ご異論は出てないということを前提に局長さんぜひ検討してください。以上です。

委員長 服部しんのすけ(自民・熱田区)：確認をいたしましたので、はい再度確認をさせて  
いただきますけどよろしいでしょうか。はいということで確認をさせていただきましたので  
今後そのように進めさせていただければと思います。

それでは、他に特によろしいですね。

はい、それでは特にないようでありますので、以上で本件を終了いたします。

本日の予定は以上でありますこれにて本日の委員会を散会いたします。

長時間お疲れ様でございました。